

2005年度  
11月20日

一宮基督教研究所

# Japan Evangelical Churches

## JEC正・補教師セミナー 資料リスト

JECの教理的アイデンティティ研究資料リスト

岬福音教会25周年記念誌に、最初の小論文を掲載させていただきましたから、それからほぼ25年を経過し、その間必要にせまられるかたちで、JECの神学に関わる多くの資料を作るように導かれ、JEC正・補教師セミナーを機会に紹介させていただきます。皆様の伝道・教会形成・神学研究の一助としていただけましたら感謝です。

### 目次:

#### JECQ&A

岬EC時代の  
小論集

東京チャペル時代の  
小論集

KBI講義録

JECアイデンティティ  
研究室

電子メール講義録

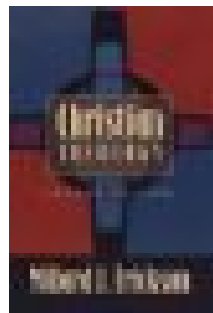
ビデオ講義録



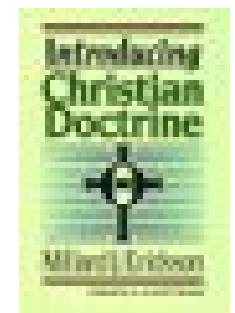
キリスト教神学第一巻



キリスト教神学第二巻



キリスト教神学



基督教教理入門



DVD-R 講義録 ch.1



DVD-R ch.2



DVD-R ch.3

# 日本福音教会Q A

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [日本福音教会Q A](#) ] [ [山崎チャペル](#) ] [ [ICI ビデオ・メッセージ](#) ]  
[ [故郷の紹介](#) ] [ [山崎の歴史概観](#) ]

[JECの神学的座標軸](#)  
[J E C の源流と遺産](#)  
[JEC教職者セミナー](#)  
[A T A 修士論文](#)

---

一宮基督教研究所

日本福音教会 あれこれ

04/03/23

---

< J E C Q & A >

[ルーツ・アイデンティティ・ストラトジの輪郭](#)

[バプテスト教会の信条](#)

[ウォットマン・ニー主要著作集の背景](#)

[ケズィック運動の考察](#)

[歴史神学の視点からみたJ E C](#)

[スプリング・キャンプ神学](#)

[スプリング・キャンプメモリー](#)

[組織神学の視点からみたK B Iの流れ](#)

[義認と聖霊のバプテスマ](#)

< 論文 >

[A T A 修士論文](#)

[JECの神学的座標軸](#)

[J E C の源流と歴史的遺産](#)

# アイデンティティ

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ]

[バプテストの信条](#)

[W. ニー著作背景](#)

[ケズニック運動](#)

[歴史神学の視点](#)

[S P キャンプ神学](#)

[S P キャンプメモリ](#)

[組織神学とK B I](#)

[義認と聖霊のB P](#)

---

日本福音教会 あれこれ

## ルーツ・アイデンティティ・ストラトジの輪郭

04/03/22

---

このファイルでは、私の所属している日本福音教会（Japan Evangelical Churches）のルーツやアイデンティティなどについて、個人的見解としていろいろと書き留めてみたい。質疑などありましたら気軽にメールをいただきたい。

【南大阪福音教会セミナー】

1998.5.17

... JECのルーツ・アイデンティティ・ストラトジ ...  
(個人的見解)

### 1. Japan Evangelical Churches のルーツ

1. [オレプロ・ミッション（現インターアクト）を通して](#)
2. [ウォッチマン・ニーの主要著作集「キリスト者の標準」「キリスト者の行程」「霊の解放」などを通して](#)
3. [カリスマ運動を通して](#)

### 2. Japan Evangelical Churches のアイデンティティ

1. [使徒的キリスト教](#)
2. [古代の正統教理](#)
3. [宗教改革の三大原理](#)
4. [正統主義神学](#)

5. [敬虔主義運動](#)
  6. [自由教会（フリーチャーチ／国家からの自由）の伝統](#)
3. Japan Evangelical Churches のストラトジィ
1. [「福音主義神学」](#) + [「ローザンヌ誓約」](#)
  2. [Normal Christian Life](#) + [World Christian Life](#)

---

## 世界宣教とアイデンティティ

### 1. J E C のアイデンティティについて

#### 1. オレプロ・ミッション（現インターアクト）から

1. オレプロ・ミッションとは「**バプテスト運動**」です。

新生した者のみに浸礼をさずけて、教会を形成する。（「バプテストの本質」H. 比ソツ）

2. 教会と国家が明確に分離した「**フリーチャーチ型キリスト教**」の特質（アメリカ）（「福音主義キリスト教と福音派」宇田進）
  1. 歴史的伝統からの自由
  2. 聖書以外に信条なし
  3. 自発に基づく原則
  4. 魂を救うこと以外には、何のかかわりも
  5. リバイバリズム
  6. 敬虔主義
  7. 反知性的傾向
  8. 教派間の競争

#### 3. コンテクスチュアリゼーション（J E C における課題）

1. 付随する非本質的な社会的・文化的・歴

## 史的諸要素のろ過

2. 福音の本質的事柄の確認
3. 福音の私たちの生のコンテキスト・歴史的状況に翻訳

2. オレブロ・ミッションの宣教方針は、「ローザンヌ誓約」を宣教活動の基本方針として。

1. 全き福音の全きキリスト教を全世界の全ての人々に
  1. 開拓伝道を優先、そして教えと教会設立を重視
  2. 諸国の文化との調和の中で、伝道と社会福祉事業とのバランス
  3. 全ての働きが早く土着化することを目標
  4. 新しい企画の実践は、現地のクリスチャンとの協力関係の中で
2. インターアクトについて
  1. スウェーデンにおける三つの団体が合同
  2. 「インターアクト」の二重の意味：インターナショナル（国際的）とインテグレイティド（統合的）な宣教活動
  3. JECにおける内外の宣教のあり方の基本方針として、「ローザンヌ誓約」を研究することは大切（JECにおける課題）
  4. 旧オレブロ系の教会と宣教師は、JECとの関係を維持

---

2. ウォッチマン・ニー著作集、「組織神学」H.シーゼン、「Introducing Christian Doctrine」M.J.Erickson,Bakerなど）から

1. 正統主義神学...聖書的・伝統的福音理解の集大成

1. 使徒的キリスト教...使徒たちの福音理解と実存

2. 古代教会の正統信仰...三位一体論、キリストの二性一人格論

3. 宗教改革の三大原理...聖書のみ、信仰義認、聖徒の交わりとしての教会

(ルーツとアイデンティティの確認と掘り下げ、再構築 / JECにおける課題)

2. 敬虔主義運動...正しい教理を正しい生活実践へ

1. 「内なる人」の強調、新生、聖化、完成の強調

2. 「我々のためのキリスト」に加えて「内なるキリスト」

3. 聖霊の働きの重視

4. 信仰における感情の積極的評価

(ウィットネス・リーのローカル・チャーチ運動で、とばっちりを受けた「ウォッチマン・ニー著作集」の教えを、より広い健全な神学の視野からケズィック運動の影響や敬虔主義運動の遺産の継承者として再評価し、JECの霊的遺産を健全なかたちで継承し発展させていくことが課題。)

---

3. カリスマ運動から

新約聖書時代の教会を今日の教会の青写真として

新約聖書の四つの相違するモデル

( "Jesus & the Spirit", "Unity & Diversity in the New Testament" , J.D. G.Dunn )

1. ルカ型...カリスマ的、恍惚的諸経験のバイタリティ（古典的ペンテコステ型）

2. パウロ型...カリスマ的共同体のビジョン（カリスマ運動型）

3. 牧会書簡型...御霊の囚人服としての伝統（保守福音派型）

4. ヨハネ型...増大する組織化、儀式化（カトリック型）

（ペンテコステ運動、カリスマ運動、第三の波の運動や「霊的戦い」「地域に働く霊」などの次々と提示されている主題に関して、J.D.G.ダンなどの底の深い聖書研究の積み重ねが大切）

ダンは、新約聖書の中に多様な教会のあり方をみており、今日におけるキリスト教会のあり方の多様性に対して、新約聖書は「受け入れられる多様性の限界線を描き出すところの正典」として機能すると述べている。

---

## 世界的クリスチャン像について

（「キリスト教世界宣教 今日と明日」J・ハーバート・ケイン）

1. JECスプリング・キャンプの内容構成（福音理解のフル・コース）

（第一日）/ 寸劇、伝道的集会（神・罪・救い）

（第二日）聖書講解 / 分科会 / 集会（血と十字架）

\*分科会：キリスト教入門、救いの確信、洗礼、聖霊のバプテスマ、奉仕

（第三日）聖書講解 / フリータイム / 集会（聖霊）

（第四日）集会（キリストのからだなる教会：奉仕、証し、宣教）

2. ケズック・コンベンションの内容構成との類似

("Keep in Step with the Spirit" J.I.Packer, IVP. "Five Views on Sanctification" Dieter, Hoekema, Horton, McQuilkin, Walvoord, Zondeervan)

(月) Sin罪意識

(火) Identification

(水) Consecration

(木) Life in the Spirit

(金) Service , Mission

### 3. 世界的クリスチャンの要素

---

#### 宣教の聖書的基盤

"The Christian World Mission : Today & Tomorrow", J.H.Kane, Baker

1. Jehovah , A Missionary God / 主は宣教の神
2. The Bible , A Missionary Book / 聖書は宣教の書物
3. The Gospel , A Missionary Message / 福音は宣教のメッセージ
4. The Church , A Witnessing Community / 教会は証しの共同体
5. Every Christian , A World Christian / すべてのクリスチャンは世界的クリスチャン

#### What a World Christian Is / 世界的クリスチャンとは何か

1. A world Christian is one who acknowledges the universal fatherhood of God. / 世界的クリスチャンとは、神の普遍的父性を知っている人である。
2. A world Christian is one who acknowledges the universal lordship of Christ. / 世界的クリスチャンはキリストの普遍的主性を知っている人である。



3. A world Christian is one who recognizes the cosmopolitan composition of the Christian church. / 世界的クリスチャンとは、キリスト教会の国際的（多民族多言語）構成を認識している人である。

4. A world Christian is one who recognizes the prime importance of the Christian mission. / 世界的クリスチャンとは、キリスト教宣教の至高の重要性を認識している人である。

5. A world Christian is one who recognizes his own personal responsibility for all phases of the Christian world mission. / 世界的クリスチャンとは、キリスト教世界宣教のすべての局面に対して彼自身の個人的責任を認識している。

### What a World Christian Does / 世界的クリスチャンは何をするのか

1. A world Christian will seek to increase his knowledge of world affairs. / 世界的クリスチャンは、世界の出来事についての知識を増し加えようとする。

2. A world Christian will broaden his view of the church. / 世界的クリスチャンは、教会についての見方を広げていく。

3. A world Christian will want to increase his understanding of the Christian Mission. / 世界的クリスチャンは、キリスト教宣教についての理解を増し加えることをのぞむ。

4. A world Christian will enlarge the scope of his prayer life. / 世界的クリスチャンは、彼の祈りの生活の視界を拡大していく。

5. A world Christian will go abroad if opportunity affords. / 世界的クリスチャンは、もし機会が与えられるなら海外へ出かけていく。

6. A world Christian will change his lifestyle. / 世界的クリスチャンは、彼のライフ・スタイルを変えていく。

7. A world Christian will recognize his personal responsibility for world mission. / 世界的クリスチャンは、世界宣教における彼の個人的責任を認識している。

J E Cにおけるクリスチャン像  
「キリスト者の標準」ウォッチマン・ニー,いのちのことば社,  
"Understanding Watchman Nee", Dana Roberts, haven books

1. 義認・新生

1. 十字架上の贖いのわざにおける主イエスの啓示
2. 悔い改めと信仰

2. 罪からの解放

1. 聖霊の啓示のわざ / 「知る」こと
2. 信仰の転機 / 「認める」こと
3. 献身の継続的過程 / 「自分自身を神にささげる」こと

3. 聖霊の賜物

1. 高く挙げられた主イエスを「見る」
2. 注がれた聖霊と内住の御霊の体験

4. 神をお喜ばせすること

1. 「肉」 - 自己生命の全部分 - に関する十字架の価値が分かるための照明
2. 「行い」を中止し、キリストのいのちの大能の働きを受け入れる (狭き門)
3. 「御霊に服従する歩み」 (狭き道)

5. 奉仕の条件、奉仕の基礎

1. 死と復活の原理
2. 「生来の力」の処理 (暗黒の夜)
3. 「肉」の源泉を深く泥さらえする (日々の十字架)

"Normal Christian Life" (求心的) を基盤とした "World Christian Life" (遠心的) の位置づけ

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ (カ)

# バプテストの信条

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [バプテストの信条](#) ] [ [W. ニー著作背景](#) ] [ [ケズィック運動](#) ]  
[ [歴史神学の視点](#) ] [ [S P キャンプ神学](#) ] [ [S P キャンプメモリ](#) ] [ [組織神学とK B I](#) ]  
[ [義認と聖霊のB P](#) ]

---

日本福音教会 あれこれ

## バプテスト教会の信条

04/03/22

---

「JECとは一体どのような群れなのですか?」「JECの信仰告白はどのようなものですか?」などと質問を受けたことを思い出す。大学生のときのことである。クリスチャン学生の集まりである「聖書研究同好会ポプラ」にはいろんな教派のクリスチャンが集まっていた。交わりの上でお互いの信仰について、教会・教派について、自己紹介することは大切なことである。しかし、わたしは「イエスさまを単純に信じているだけです。」というのが精一杯で、あまりに自分の所属する群れの信仰について無知であった。そのときはそれでもよかったが、霊的に成熟をめざしていくとき、自己と所属教派のアイデンティティの理解を深めることは大切な要素ではないかと思うのである。JECはスウェーデン・オレブロ・ミッションの宣教師によって形成されてきた群れである。そしてオレブロ・ミッションはバプテスト運動という背景をもつ教派でもある。そこで、このページでは「バプテスト教会はいったいどのような信仰(信条)をもつ群れであるのか」の輪郭を確認してみたい。

## バプテスト教会の信条

バプテストとは何か。どこに由来するのか。バプテスマのヨハネから、アナ・バプテストから、しかしバプテスト運動とアナバプテストとを歴史的に結び付けることは難しい。英国の宗教改革の中から出た。国教会(聖公会)内部での改革をあきらめ、そこから分かれた分離主義者(16世紀末~17世紀)である。彼らは、オランダのアムステルダムなどに行き、思想的にアナバプテスト的主張を担う分離派の教会ができる。

その特徴は、

1. 信条的でない。つまり信条をもとにして教会を形成していく性格のものではない。綿密ではない「教会論」からこのようになった。シュライトハイム信仰告白によれば「ここに集まったすべてのものが信仰告白する。」とする主体的な信条である。つまり、「集まった信仰者」によって、「信条および教会」ができ

る。

2. バプテストの信仰を組織的に提示してはいない。彼らは信条が聖書にとってかわることを恐れた。彼らの信条は簡易信条主義で、聖書の教えの主要なポイントをあげていく、聖書は聖書のみで十全であるとする考え方であり、群れの一致のためになめとなる信条のみをとりあげている。（これに対して、ウエストミンスター信仰告白などは「この信条がもっともよく聖書を解説している」とする信条主義である。）
3. 自己の教理的立場を、他のグループから区別するため弁証的に信条が用いられる。そしてそれは教会員の教育、聖書研究の手引きとして用いられる。
4. 信条は永続的なものではない。教会の主体的な主張により、自由に信条を作ったり、変更したりもできる。彼らはかなり広い立場の枠をつくり、その中での個人の自由をゆるす。（アナバプテストと共通する。）
5. 信仰告白における個人の主体性が強調されている。信仰告白は個人が先にある。（ルター派、改革派は教会の告白が先にある。その教会の告白を受け入れる信仰者を教会に受け入れる。）そして教会の信条にあわなくなったら、自由に教会を変えられる。個々の教会の自主性を認めており、これを拘束する信条を認めない。
6. 宣言的性格をもつ。この世そして他のグループに向かって。

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ(カ)

---

# W . ニー著作背景

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [バプテストの信条](#) ] [ [W . ニー著作背景](#) ] [ [ケズィック運動](#) ]  
[ [歴史神学の視点](#) ] [ [S P キャンプ神学](#) ] [ [S P キャンプメモリ](#) ] [ [組織神学とK B I](#) ]  
[ [義認と聖霊のB P](#) ]

---

日本福音教会 あれこれ

## ウォッチマン・ニー主要著作集の背景

04/03/22

---

### 序

#### キリスト者の標準の背景

#### J E C とウォッチマン・ニーブーム

---

### 序

「ウォッチマン・ニーの『キリスト者の標準』を読んだことのない人はJ E C のメンバーとは認めません。」これは、J E C のある集会で古参の先生が言われたことばであった。つまり、オレブロ・ミッション宣教師によって近畿各地に形成された諸教会のひとつの共通要素、しかも共有しうる福音理解がこの書物にまとめられていると言われたのだと思う。

19才でクリスチャンになってから、1年の間に三つの貴重な経験をした。最初は「ハーレイの聖書ハンドブック」を片手に聖書を通読したことである。自分の信じている書物がどのようなものなのかがかなり理解でき、キリスト教信仰についての自信のようなものが確固たるものとされたように感じた。第二は大阪の梅田の扇町教会でもたれた聖霊カリスマ・セミナーに参加したことである。そこで使徒行伝の体験が今日でも起こりうることを目撃したこと、それを自分自身も体験したことである。

第三は、ウォッチマン・ニーの『キリスト者の標準』を読んだことである。この書物は、わたしに福音をどのように理解し、それを毎日の日常生活の中で生きていくのかを本質的・原理的に深く教えてくれた。それ以来、関西聖書学院(K B I)在学中にはその著作のほとんどを収集し、彼から教えられてきた。

ただ、ひとつ課題としてきたことは、彼の福音理解はキリスト教神学の領域において

どのような位置づけをもつものであるのか、ということであった。もうひとつは「ウィットネス・リーの『ローカル・チャーチ・ムーブメント』」との関連についてクリティカルな評価が必要とされるというものであった。

### 「キリスト者の標準」の背景

「ウォッチマン・ニーのヨーロッパへの旅の後、ふたつの書物が著述された。『キリスト者の標準』はローマ人への手紙5～8章に基づいて神への全き献身のゴールに向かって信仰者の成長について著述されている。出版社は「**靈的古典**」としてその業績を紹介している。そして実際にアメリカ版においてはすでに60万部以上が販売された。その中心テーマは、「**キリストにとどまる**」こと、神に向かっての成長のひとつである。しかしニーの解釈を性格づけているように、7章は**霊と魂への神の応答**に十分なる強調がおかれている。

『キリスト者の行程』は靈的成長の上にこの同じ強調が多くなされている。ここでニーはエペソ人への手紙のメッセージを、**信仰者に対する救済論的講解**に関連し、パウロによる明確な動詞の使用によって、要約する。英国とヨーロッパにおけるホーリネスのグループに語られたとき、それらのメッセージは歓迎をもって受け入れられた。彼の神学は全面的に、アンドリュー・マーレーやF . B . マイヤーのそれと同様に**恵み深く、例証的なスタイルをもったケズィックの教え**のそれである。」

### JECとウォッチマン・ニーブーム

JECは、第一世代の日本人教職者が関西聖書神学校（塩屋）で学ばれたことにより、**聖化の危機主義の理解**、つまりホーリネス（聖め）の経験を強調する要素を取り入れることとなった。しかし、元来オレブロ・ミッション宣教師はバプテストの背景をもっておられたので、**聖化については漸進主義の理解**をもっておられたようである。宣教師と日本人教職者の間に聖化についての理解で軋轢があったとは聞いていない。しかし微妙な空気が存在したであろうことは想像にかたくない。そのようなときに、ウォッチマン・ニーの著作「キリスト者の標準」はまことに便利な書物であった。ペンテコステ・カリスマの流れの中においてもポピュラーな書物であったこの本は、**聖化の理解において漸進主義と危機主義を折衷したものであった**からである。多分このような経緯をたどって、ウォッチマン・ニーの著作「キリスト者の標準」はJECの福音理解の決定版とされた。

わたしたちが青年であったころ、ウォッチマン・ニーブームのようなものがあり、洗礼式のプレゼントはきまって「キリスト者の標準」であった。また「キリスト者の行程」「霊の解放」など彼の著作集はよく読まれた。しかし彼の後継者のひとりである**ウィットネス・リーの「ローカル・チャーチ運動は異端的である**」として、問題に

なってきたとき、ウォッチマン・ニーの著作のあるものは否定的にみられるようになった。JECニュースで「ローカル・チャーチの問題」を指摘した批判書の翻訳が連載された。それとともに、JECにおけるウォッチマン・ニーブームもさってしまった。

KBIでの三年間は、ウォッチマン・ニーの著作集数十冊を多くの感動をもって読みふけた年月であった。ウィットネス・リーの著作は読み始めてすぐに問題のある著作であると分かった。そしてすぐに廃棄処分にした。しかし、ウォッチマン・ニーの場合は、その著作のどこに問題があるのかきちんと評価できないままであった。あるとき、大阪ライフ・センターにて” [Understanding Watchman Nee](#) ”という書物を見つけた。ウォッチマン・ニーの生涯、神学教育の背景、影響を受けた書物、宣教師、著作リスト、著作の原資料、中国の特別な時代背景などを勘案したトータルな研究書であった。

わたしはJECにおける潮の満ち干きのような「ウォッチマン・ニーブーム」のあり方に危惧の念を抱くものである。JECではいまなおウォッチマン・ニーの著作において語られている「十字架のメッセージ」を基軸としている。しかしトータルにその背景について研究されたことはない。十字架のメッセージがJECの主要なメッセージであるのならば、その継承・発展・深化のためにトータルなウォッチマン・ニー研究があってしかるべきではないのかと思う。

ダナ・ロバーツの研究書、” [Understanding Watchman Nee](#) ”とすべての点で意見を同じくするものではないが、客観的な分析のための資料を提供してくれているという点では、ありがたい書物である。ダナ・ロバーツの考察を翻訳しつつ、わたしの意見を述べるというかたちで「対論形式」の独自のウォッチマン・ニー研究をまとめてみたい。JEC第二世代、第三世代の若手の伝道者層を対象として。

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ(カ)

---

# ケズィック運動

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [バプテストの信条](#) ] [ [W. ニー著作背景](#) ] [ [ケズィック運動](#) ]  
[ [歴史神学の視点](#) ] [ [S P キャンプ神学](#) ] [ [S P キャンプメモリ](#) ] [ [組織神学とK B I](#) ]  
[ [義認と聖霊のB P](#) ]

---

日本福音教会 あれこれ

## ケズィック運動の考察

04/03/22

- 
1. [The History and Message of Keswick](#)  
ケズィックの歴史とメッセージ
  2. [The Method of Keswick](#)  
ケズィックの方法

---

ウォッチマン・ニーの「キリスト者の標準」、それは日本と世界の福音派においてベスト・セラーとなったキリスト教書籍のうちの一冊である。J E C においても然りである。わたしたちが洗礼を受けたとき、きまっていたいた受洗記念のプレゼントは「キリスト者の標準」であった。

では「キリスト者の標準」における教えとはどのような教えなのであろうか。前のページで「彼の神学は全面的に、アンドリュー・マーレーやF . B . マイヤーのそれと同様に恵み深く、例証的なスタイルをもったケズィックの教えのそれである。」と指摘した。

### [The History and Message of Keswick](#) ケズィックの歴史とメッセージ

ケズィックは、1875年以来毎年「実践的ホーリネスの促進のための」聖会が開催されている英国の湖水地方にあるリゾートタウンの名前である。その年月のあいだに、いくつかの他の聖会の中心地が同じ希望のメッセージを広める目的のために設立されてきた。 - たとえば、アメリカのケズィックや今は現存しないカナダのケズィックがある。しかし多分さらに広くゆきわたった影響は、ケズィックのパターンをかたどった、世界中のあらゆる場所で開催されてきた毎年の聖会である。



初期の発端はアメリカ人から起こった。しかし最初のケズィック聖会からずっと、リーダーシップは英国人であった。例外なしに、その指導者たちは、彼ら自身の低レベルのクリスチャン経験に大変欲求不満をもち、そして聖霊の力において生きる生活を切望した人々であった。彼らはケズィックにそのような生活を見出し、そのような経験はすべての人にとって可能であるという福音を広めるために他の「標準的なクリスチャンたち」と結びついた。そのリーダーシップは、世紀の転換点あたりの10年間においてケズィック聖会を導いた、聖公会・バプテスト・長老派そして他の教派からの多くの著名な聖職者とともにあらゆる教派からやってきた。

ケズィックは教理的体系ではない。いわんや組織とか教派でもない。多分それがそれへの参加がなぜそのように広範囲なのかを説明している。リードした聖職者や著名な学者たちがその運動を導いたけれども、ケズィックのリーダーはその教えに関する論文を書かなかった。そこにはいかなる公式の神学的声明もないから、その運動の外部のある人たちはその教えを誤解した。そして教理的立場の広い多様性は「ケズィック」という名前と関連づけて考えられる人々によって主張され教えられた。それにもかかわらず、共通のケズィックのメッセージとかアプローチについて語ることは適切である。わたしたちは、ケズィック聖会の歴史とメッセージについての定義的な扱いの提供をスティーブン・バラバに負っている。バラバ彼自身はケズィックのリーダーではなかったけれども、彼の学問的であり暖かみをもった肯定的な分析はケズィックのリーダーたちの承認をかちとった。

バラバは、その最初の聖会への「招き」において表現されていると結論している。 - 「実践的ホーリネスの促進のための聖会」。彼は同様にさらに拡大された定義を与えている。

「クリスチャンの力への道程」の真の最初の問題において、著者は信仰の実際的な可能性と考えているものを述べている。「神のことは、標準的なクリスチャン生活」が認識される罪に対する勝利を確証する標準のひとつであると教えている。そして誘惑は神によって供給される逃れ道なしにわたしたちに起こることはゆるされない。その結果わたしたちはそれに耐えることができる、とわたしたちは信じる。」ケズィックはこの信仰から決して離れなかった。始まりから今日まで、信仰と勝利、平和と安息の生活は、すべての神の子の正統な相続財産であり、「長時間の祈禱や骨の折れる努力」によってなく、落ち着いたそして断固とした信仰の行為によって、それを手に入れることができると教えている。「神の子の標準的な経験は継続的な敗北の代わりに勝利、過酷な重荷の代わりに自由、休まることのない苦悩の代わりに『まったき平和』であるべきであると、それは教えている。キリストにあって、すべての信仰者の勝利、自由、安息が備えられている、そしてこれは不可能な理想を追いかける生涯の葛藤によって手に入れるのではなく、神への個々人の献身によるのであり聖霊の内住によると、それは教えている。」

1890年の聖会の集会のひとつにおいて、H.W. ウェップ・ピープルはきっぱりとした文章の中で通常の教えとこれの違いを述べている。「以前、わたしは失敗を期待し、解放に驚かされた。今は、わたしは解放を期待し、失敗に驚かされている。」

それらの陳述は共通の神学的基盤をもっており、メッセージの要約とみられるかもしれないけれども、全体的にみてケズィックの神学は基本的に主流派プロテスタント神学である。それゆえに、事実上リーダーシップが神学思想のすべての主要な流れから

引き出されることが可能とされてきた。それゆえ、聖会それ自身の方法からもっともよく理解されうるケズィックの多様な強調は、そのメッセージの理解のために欠かすことはできない。

## The Method of Keswick ケズィックの方法

伝統的なケズィック聖会はそれぞれの日に特別な主題を追求している。最初の日**は罪を強調する**。聖さについての神の基準と人間の欠陥は罪と霊的必要についての深い確信を奨励する明白に述べられた意図をもって人々の前に主張されている。

二日目は**勝利的クリスチャン生活のための神の備えが提示される**。キリストの成し遂げられたみわざは義認以上のものを供給する。 - それは同一化を供給する。事実、**キリストとの同一化**はパウロの神学の核心とみられている。

キリストの死と復活においてキリストと信仰者の同一化の真理がもっとも明白に提示されている新約聖書の箇所は、ローマ人への手紙 6 章である。聖化の教理のためのこの章の重要性を過大評価することは不可能だと思う。それは正しく**魂のマグナ・カルタ**そして**クリスチャンの奴隷解放令**と呼ばれてきた。

成功的なクリスチャン生活のための神の備えは、キリストの成し遂げられたみわざや生き生きとした臨在のみでなく、聖霊の内的な働きにおいても見出される。三位一体のメンバーのうち、信仰者を聖めるのは聖霊である。聖霊は罪の下方への牽引力を打ち消すように働く。

( "Five Views on Sanctification" よりの翻訳・抜粋 )

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ (カ)

---

# 歴史神学の視点

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [バプテストの信条](#) ] [ [W. ニー著作背景](#) ] [ [ケズィック運動](#) ]  
[ [歴史神学の視点](#) ] [ [S P キャンプ神学](#) ] [ [S P キャンプメモリ](#) ] [ [組織神学とK B I](#) ]  
[ [義認と聖霊のB P](#) ]

---

日本福音教会 あれこれ

## [歴史神学の視点からみたJ E C](#)

[礼拝説教について思うこと](#)

04/03/22

---

日本福音教会 補教師セミナー '98.11/9 ~ 11 山崎チャペル 安黒務

### 1. [歴史神学の視点からみたJ E C](#)

- \* [神学的・教理的要素](#)...聖書信仰にたち、論理的体系的教理をもつ（シーセン、エリクソン）
- \* [歴史的要素](#)...福音派における多様性の背後に特定の歴史的運動が介在（バプテスト運動、ケズィック運動、カリスマ運動など）
- \* [社会的・文化的要素](#)（北欧スウェーデンの気風、簡素で実質重視、主体性の尊重、中庸・バランスの尊重、多様性を許容するキャパシティ）

### 1. [オレブロ・ミッションから継承している恵み](#)

- \* [使徒的キリスト教](#)...J E Cは「使徒的キリスト教を継承し、それを熱烈にあかしめる者である。」
- \* [古代の正統信仰](#)...J E Cは「あらゆるところで（公同性）、常に（古代性）、すべてによって（一致同意）信じられてきた」正統信仰の根幹を基本としている。
- \* [宗教改革の三大原理](#)...J E Cは「聖書のみ」「信仰義認」「聖徒の交わりとしての教会」（万人祭司）の三点、この三大原理を忠実に継承するゆえに、宗教改革のすえである。

- \* **英国のプロテスタント...** JECは「ジュネーブのカルヴァン主義からローマ・カトリックへと揺れ動いたあと、中道すなわち英国国教主義に進んだ英国聖公会から分かれていったバプテスト」にルーツをもつ、スウェーデン・バプテスト系オレブロ・ミッションにルーツをもつ。
- \* **正統主義神学...** JECは「宗教改革の果実が神学的体系に組織化された正統主義神学」にヘンリーシーセンやミラード・エリクソンの組織神学のルーツを見出す。
- \* **敬虔主義...** JECは「ウォッチマン・ニーの『キリスト者の標準』などに表現されているように正統主義神学を正統主義実践にむすびつけようとする敬虔主義運動の性格」を宿している。『キリスト者の標準』は英国のケズィック運動のメッセージを整理したものである。
- \* **自由教会の伝統...** JECは「教会と国家とがはっきり分離した社会において独立と自治を有するタイプの教会であり、目的を同じくする者の自発的共同体としての教会」である。JECの目的とは何であろうか。それは「開拓伝道、教会形成、神学教育の三要素を整合した上になされる世界宣教の推進」ということではないだろうか。
- \* **福音主義同盟...** JECは「オレブロ・ミッションが世界福音同盟に所属しているように、JECの神学的立場は世界福音主義同盟と同じである。」ただ、日本福音同盟はペンテコステ・カリスマ・第三の波に対してアレルギーをもっているので、現在日本の福音派は改革派系とホーリネス系などの「日本福音同盟」とペンテコステ・カリスマ・第三の波の流れの「日本リバイバル同盟」に分かれている。

## 2. 関西聖書神学校（塩屋）を通しての恵み

- \* **「聖め」の信仰...** メソディズムとも呼ばれる。「新生に続く、新生とは別個の明確な霊的経験」を強調する。
- \* **バプテストの聖化理解**は、一般的に漸進主義的である。一生涯かけての成長過程のように理解する。
- \* **ウォッチマン・ニーの聖化理解**は、ケズィック運動のメッセージを背景としており、危機主義と漸進主義を折衷したものである。「私たちの古き人はキリストとともに十字架につけられた」というみことばの聖霊による照明の経験を原理とし、経験の多様性を認める。ケズィックの聖会においても、さまざまな教派からの講師により、「聖化の促進」という基本テーマにそって多様なメッセージがなされている。

## 3. 北米からのカリスマのチームを通しての恵み

- \* 今世紀初頭からの**ペンテコステ運動**、そして今世紀中期から伝統的教派内における**カリスマ運動**、そして今世紀後期における保守福音派内における**第三の波**という聖霊運動がある。

- \* J E C が影響を受けたのは、今世紀中期からのカリスマ運動であり、聖公会のカリスマ運動の指導者、デニス・ベネットの「朝の九時」や「聖霊とあなた」などはよく読まれた。
- \* J E C におけるカリスマ運動に関する資料としては、拙稿「聖霊のバプテスマの神学と経験に関する一考察」、拙論「J . D . G . ダンの『イエスと御霊』に関する一考察」などがある。
- \* その他、伝統的神学の継承と今日における神学の状況、さらに神学の将来への展望までを視野に入れたミラード・エリクソンの組織神学著作集の翻訳・講義テープを製作中！関心のある方は、山崎チャペル 安黒務（ . 0790-63-0252 ）まで。

## 2 . 礼拝説教について思うこと

1. 委員の先生方がいろんなことを指摘されると思いますので、ひとつだけ書かせていただきます。
2. 「ひとつの説教にあまり多くのことを盛り込まない。ひとつのとき（One Time）に、ひとつの主題（One Subject）の、ひとつの面（One Aspect）を語る。」と言われます。また、逆に「説教は教派の主張のみを語ってはいけません。すべての教理についてははっきりと語らねばならない。調和のとれた総合性のある説教をしていかねばならない。」とも言われます。わたしたちはどうすればよいのでしょうか。
3. ひとつの解決法として、長期的視野にたち、ライフ・メッセージ・プランをもつことです。神さまから与えられたメッセージをトータルに説教していくために、メッセージの全体図をもつことです。
4. そして、個人的に与えられたヒント、大きな集会でもらったメッセージ、書物から得た証し、その他いろんな材料をそのライフ・メッセージ・マップの中に位置づけるのです。そして、会衆の必要に応じて全体図を意識しつつ、One Time , One Subject , One Aspect を語るのです。
5. 全体図について申しますと、その参考となるのは、聖書のメッセージの全体図を描いているところの組織神学ということになりますが、これは大きすぎるでしょう。
6. クリスマン生活で最も身近な領域は、聖書論、神論、人間論、キリスト論、救済論、教会論、終末論の中で、「救済論と教会論」でしょう。
7. 救済論のメッセージ・マップで、一番ポピュラーなもののひとつは、ウォッチマン・ニーの「キリスト者の標準」です。この書物はローマ書の講解を中心にしており、典型的な救済論メッセージ・マップです。
8. 「キリスト者の標準」のメッセージと構成の資料源は「ケズィック運動」であるといわれています。ウォッチマン・ニーのある書物には問題があるといわれていますが、「キリスト者の標準」は「ケズィック運動」を背景にし、さらに教会史においては敬虔主義運動（正統的教理を生活実践に結び付ける運動）の遺産を

継承するもので、きわめて健全な内容となっています。

9. 敬虔主義運動の書物の著者としては、シュペーナー、ツィンゼンドルフ、ハレスビー、バンヤン、ウェスレー、ホイットフィールド、ケアリー、スポルジョン、ムーディー、ダービー、ミュラー、フィニー、マーレー、シンプソン、トゥザー、トーレー、マイヤーなどがあげられます。これらの書籍も生活的なメッセージの資料源となることでしょう。
10. メッセージ・マップについての話ですが、「キリスト者の標準」の内容構成は、ケズィック聖会のプログラムと酷似しています。月曜が「罪」、火曜「キリストとの同一化」、水曜「献身」、木曜「御霊にある生活」、金曜「奉仕、宣教」というテーマの構成となっています。
11. 「キリスト者の標準」の内容構成は、1．義認・新生、2．罪からの解放、3．聖霊の賜物、4．神を喜ばせること、5．奉仕の条件・基礎となっています。
12. この構成は、組織神学の視点からいえば、救済論をベースにして教会論の視野までメッセージを展開しています。ウォッチマン・ニーの著作集は、救済論をベースにして、他の真理の領域を関連づけながら取り込まれているように思います。
13. わたし個人としては、青春期に救われ、その初期に「キリスト者の標準」を通して「福音理解」を刻み込まれたので、ひとつの説教をするとき、この説教は「キリスト者の標準」の説教マップでどの位置にあたるのだろうかと考えます。
14. また、語るべきメッセージがわからなくなってしまうときなども、説教マップとしての「キリスト者の標準」を読みかえすことにより、今会衆に語るべきメッセージを見出すことがしばしばです。
15. クリスチャンの霊的成長の全体像をしっかりとみつめた上で、今どのへんを語るべきなのかが分かってくるのです。
16. 「キリスト者の標準」の説教マップは、敬虔主義運動をはじめ多くの著者からの資料を整理して語る枠組みでもあります。
17. ケズィックの聖会が組織神学の内容構成に従ったものであるように、「キリスト者の標準」の説教マップは神学的な視点からもきわめて有益な資料といえます。
18. あなたのライフ・メッセージ・プランを作成していかれるとき、「キリスト者の標準」を説教マップのひとつとして活用されることをおすすめします。
19. 「キリスト者の行程」「霊の解放」と洋書の"Changed into His Likeness", "What Shall This Man Do?"なども有益な書物です。

# S P キャンプ神学

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [バプテストの信条](#) ] [ [W. ニー著作背景](#) ] [ [ケズィック運動](#) ]  
[ [歴史神学の視点](#) ] [ [S P キャンプ神学](#) ] [ [S P キャンプメモリ](#) ] [ [組織神学とK B I](#) ]  
[ [義認と聖霊のB P](#) ]

---

日本福音教会 あれこれ

## JEC Spring Camp Theology

わたしの福音理解

04/03/24

---

義認

聖化

聖霊のバプテスマ（もしくは満たし）

キリストのからだなる教会（賜物による奉仕）

宣教（派遣）

---

K B I の二学期の終業式のメッセージを頼まれたのを機会に、わたしの福音理解と題して、J E C と K B I の流れの中でわたしが養われた福音をわたしがどのように理解しているのかを整理し分かち合う機会とさせていただきたい。参考文献もリストアップしているので、J E C と K B I の流れにそってそれぞれの領域をさらに掘り下げる研究を展開していただきたい。（終業式においては、「導きをさぐる神学生」というコンテキストであったために、結果的に「召命」の領域のみを体験的に解き明かすときとなった。）

以下の五つのポイントは、J E C の高校生スプリング・キャンプにて "**ダビデの五つのつぶて**" と題してメッセージしたもので、わたしの福音理解の骨格を表現している。ダビデはサウルのよろいをもらったのであるが、それは使い慣れていなかったのかえて不便であった。それに反して常に使っていた石の飛び道具は百発百中の武器であった。福音理解は客観的な側面とそれを日常的にその福音理解を生きるという主観的側面とがある。以下の五つのポイントはわたしの日常の霊的生活の骨格でもある。またそれらは十数年スプリング・キャンプに関わる中で教えられた流れであり、

J E C Spring Camp Theology とわたしが名づけたものであるが、わたしのみでなく多くの関係者に賛同をいただけるものと思う。わたしとJ E C スプリング・キャンプの関係については、次のページにて記述している。

J E C Spring Camp Theology の内容構成とケズィック聖会の構成が類似すること、またそれらの構成が正統主義神学のエッセンスを反映するものであることは、共立基督教研究所における歴史神学研究と組織神学研究、そして一宮基督教研究所における継続神学研究の過程で浮かび上がってきたものである。わたしはそれらの研究により、J E C と K B I の流れが健全な聖書的、かつ福音主義的公同性の上にホーリネス的強調とペンテコステ・カリスマ的強調をもつものであることを確信するにいたった。それゆえに、これら諸宣教師、諸先輩牧師から受け継いできた霊的・神学的遺産を確実に継承し、それらを21世紀の新しいコンテクストに向けて深化・発展を期すべきだと思ふのである。J E C と K B I の流れの歴史的ルーツとアイデンティティの研究のための最良の書は「福音主義キリスト教と福音派」(宇田進)であり、21世紀の新しいコンテクストに向けてのJ E C と K B I の流れの深化・発展のための最良の書は"Christian Theology (要約版として [Introducing Christian Theology](#))" (Millard J. Erickson) があり、それらはK B I において教えられている。

## 1. 義認 (救いの確信) ...ロ-マ 1-5:12

- a. ウォッチマン・ニー「キリスト者の標準」. "The Glory of His Life"
- b. R.H.カルペッパー「贖罪論の理解」.
- c. Millard J.Erickson "Christian Theology"."Introducing Christian Theology"

## 2. 聖化 (きよめの確信) ...ロ-マ 5:13-8:14

- a. 西宮 E C 礼拝における高橋師のローマ7章のメッセージ、我喜屋師のJ E C 聖会における十字架のメッセージ
- b . ウォッチマン・ニー「キリスト者の標準」「キリスト者の行程」「霊の解放」"Changed into His Likeness""What Shall This Man Do ?""Spiritual Knowledge""The Glory of His Life""The Spiritual Man"
- c . J . I . パッカー... "Keep in Step with the Spirit", "A Quest for Goodliness", "Discovering Holiness" ホーリネス経験の多様性、掘り下げ
- d . J.Robertson McQuilkin... "Five Views on Sanctification" -Wesleyan View, Reformed View, Pentecostal View, Keswick View, Augustinian-Dispensational View
- e . Donald G.Bloesch... 「教会の改革的形成」.



### 3. 聖霊のバプテスマ...ロ-マ 8:15-8:29、12:1-

a . 梅田扇町教会における聖霊カリスマセミナー...「異言を伴う聖霊のバプテスマ」、使徒行伝の聖霊体験の目撃、体験

b . R.H.カルペッパー「カリスマ運動を考える」とその重要参考文献リスト...歴史と神学と実践についての包括的理解、客観的立場としての聖霊のバプテスマ理解（保守福音派）と主観的経験としての聖霊のバプテスマ理解（ペンテコステ・カリスマ派）

c . James.D.G.Dunn "Jesus and the Spirit - A Study of the Religious and Charismatic Experience of Jesus and the First Christians as Reflected in the New Testament -"との出会い...[アバ意識と異言、霊による賛美と祈りに関する深い理解](#) -

d . [ヘンドリクス・ベルコフ「聖霊の教理」](#)...義認・聖化・召命 - 救済論の第三領域としての聖霊の満たし（バプテスマ）は、信仰者の個性を占有し、キリストのからだと社会において貢献

e . Harvey Cox "Fire from Heaven"...人類の普遍的必要である霊的・原初的経験の回復という視点 - 原初的発語（異言）、原初的敬虔（しるしと不思議）、原初的希望（未来の存在）、娘達は預言する、音楽はわたしをイエスのもとへ（ジャズ音楽とペンテコステ主義）

### 4. キリストのからだなる教会

a . C.Peter Wagner 「あなたの賜物が教会成長を助ける」

### 5. 宣教（派遣）

a . 奥山実 「世界宣教と教会」「伝道学」

b . 宇田進 「キリスト者の社会的派遣」「ローザンヌ誓約」

キャンプなどは時間がたつぷりあるが、礼拝などは多くても三ポイントくらいの方が理解しやすい。上記の五つのポイントのうち「**3 . 聖霊のバプテスマ（もしくは満たし）**、**4 . キリストのからだなる教会**、**5 . 宣教（派遣）**」は、ヘンドリクス・ベルコフの概念を活用して、「**召命**」という概念でひとまとめにして理解できると思う。（ヘンドリクス・ベルコフの「聖霊の教理」の研究は[別のファイル](#)で取り組むつもりである。）

#### 1. 義認

#### 2 . 聖化

3 . 召命...ヘンドリコフ・ベルコフはその著書「聖霊の教理」において、救済論の範疇を構成する三つの要素を義認・聖化・召命と呼んでいる。

ヘンドリコフ・ベルコフは、**救済論の第三領域**としての**聖霊の満たし**(バプテスマ)は、信仰者の**個性(賜物)**を占有し、キリストのからだと社会における**貢献(派遣)**へと結実すると認識されている。この認識は、**召命という概念**と呼ばれ、**聖霊論・救済論・教会論**を貫通する教理的認識であり、きわめてすぐれたものである。

通常、聖霊論は救済論に吸収されたかたちで論述されている。また教会論はその中の重要な要素として聖霊の賜物論を扱うことをしてこなかった。最近の組織神学書において、M.J.エリクソンが聖霊論の章を設けて「賜物論」を展開しているが、H.ベルコフほどの徹底性がみられない。またD.ブローシュは万人祭司制の教理の領域において「聖霊の賜物論」を扱っているのが目を引く。いろんな扱いが可能であるが、H.ベルコフの**義認と聖化の教理に匹敵する救済論の第三領域としての扱い**には、圧倒される思いである。わたしは組織神学の構成において、**聖霊論、救済論、教会論を貫通する「召命」という概念**を徹底して掘り下げることが、21世紀の組織神学構築にとってきわめて重大な作業のひとつであると確信している。

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ(カ)

---

# S P キャンプメモリ

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [バプテストの信条](#) ] [ [W. ニー著作背景](#) ] [ [ケズィック運動](#) ]  
[ [歴史神学の視点](#) ] [ [S P キャンプ神学](#) ] [ [S P キャンプメモリ](#) ] [ [組織神学とK B I](#) ]  
[ [義認と聖霊のB P](#) ]

---

日本福音教会 あれこれ

## J E C スプリング・キャンプメモリー

わたしの福音理解

04/03/24

---

K B I の二学期の終業式のメッセージを頼まれたのを機会に、わたしの福音理解と題して、J E C と K B I の流れの中でわたしが養われた福音をわたしがどのように理解しているのかを整理し分かち合う機会とさせていただきたい。集会でのメッセージはそのごく一部分であるが、ここではその準備ノートからお分かちしたい。

「**義認・聖化・聖霊のバプテスマ（もしくは満たし）・キリストのからだ・宣教**」という五つの要素は、J E C のスプリング・キャンプ（我喜屋師・高橋師・スンベリ師等のメッセージによって形作られてきた）のメッセージである。わたしは、それを**J E C スプリング・キャンプ神学（J E C Spring Camp Theology）**と呼んでいる。この毎年春に開催される高校生キャンプは、J E C の諸教会がそれぞれの地域の教会学校で導かれ、養われてきた魂がはじめて**一同に会する集会**であった。ちょうど山地の谷間から発するそれぞれの支流がはじめて**合流する地点**にあたる場所であった（最近は中学生キャンプも開催されるようになった）。

このキャンプの特徴は、高校生の時期に三泊四日でK B I（関西聖書学院）でもたれるところにあった。高校生といえ、人生において最も多感な時期である。生きるとは何かを考え、人生について愛について友情について思い悩むときである。このような時期に、それらのことを聖書にしたがって掘り下げられる**修養会のような充実した内容をもつキャンプ**であった。

三泊四日という日数もきわめて重要な要素であった。一泊二日であれば、その内容はひとつのテーマにしぼられる。しかし三泊四日なら**J E C の中に流れるメッセージのフルコース**が可能であった。初日には寸劇の後に「**神・罪・救い**」の伝道メッセージが語られるのが常であった。新しい魂は耕され、信仰の決心へと導かれていった。

二日目の朝はバイブル・リーディングのときがあり、ローマ書の解き明かしがよくな

された。十字架の解き明かしがあり、義認と聖化、特にクリスチャン生活における霊と肉の問題（ローマ6，7，8章）はよく扱われた。午後には分科会があり、分科会A：信仰入門クラス、救いの確信クラス、洗礼準備クラス、聖霊のバプテスマのクラス、教会における奉仕のクラス、献身のクラス、分科会B：友情・恋愛のクラス、進路のクラス、などがあった。もちろん、二つに分かれてディスカッションの集会、三高集会（高校生の、高校生による、高校生のための集会 - 司会、説教、あかし、賛美、会衆すべてが高校生）、甲山ハイキングなど楽しいプログラムも満載であった。

わたしは19才のクリスマス、大学生のときに救われた。そしてその翌年の高校生キャンプから毎年サブ・リーダーのひとりとして参加するようになった。JECスプリング・キャンプのもうひとつの特徴は高校生とスタッフ以外に、それぞれの教会で高校生クラスを担当している多くの大学生や社会人がサブリーダーとして参加するところである。サブリーダーは高校生のスモール・グループのひとつをまかされ、兄貴分、姉貴分として高校生とスタッフの間の架け橋となり、交わりと祈りを通してよきカウンセラーともなっていた。高校生はサブリーダーに自分の将来像を描き、サブリーダーは高校生の中に自分の青春時代を回想していた。

高校生キャンプは、高校生、サブリーダー、スタッフとひとつの成長の流れがあり、その流れの中で毎年のように救われ、チャレンジをうけ、一段ずつステップを踏みながら自然なかたちで成長していく多くの高校生と青年たちの姿をみてきた。

二日目の夜から三日目は、十字架による「罪の赦し」と「古い自我からの解放」の恵みに根ざしてのクリスチャン生活における整理やチャレンジのメッセージが続いた。夜の集会は、メッセージに続いて聖霊のバプテスマ（もしくは満たし）の祈りのひとときが続いた。三日目の夜は、献身とか宣教へのチャレンジが多かったように思う。四日目の朝は、最後の集会であり堅実な教会生活と地道な証しのチャレンジがあった。キャンプで舞い上がった状態から現実の生活にもどるわけであるから、「蛇のようにさとく、鳩のように素直に」と語られたわけである。

JECのスプリング・キャンプは、スンベリ師や道本師等の相談から始められ、福野師やその他の多くのスタッフに受け継がれ、やがて吉田師やわたしもスタッフとして運営に加わるようになった。スタッフには堺ECや他のJECの教会の高校生クラス担当教師も加えられていた。高校生委員会は、春の高校生キャンプが主たる行事であったので、年末から数回の委員会が開かれ、諸教会の高校生クラスの様子と報告と分析からはじまった。そして今年のキャンプの必要は何か話し合われ、祈りもとめられた。

このように、高校生たちの必要というコンテキスト、いわば受領者主導（Receiver-Centered）のメッセージが準備されていくわけであるが、それを満たすものは、わたしたち、すなわちJECという流れの中で養われ、その中で育まれているスタッフを通して流れて行く福音であった。三泊四日の集会におけるメッセージの流れを構成しようとする、必ずやその構成に論理性と体系性が求められることとなる。JECにおいては、JECのアイデンティティについて探求の努力がなされてこなかった（我喜屋師は例外であるが...）。

しかし、JECスプリング・キャンプは、CSから養われてきた高校生たちがはじめて、JECの基本的な福音理解の全体に接する場であり、KBIという独特の雰囲気も”神聖な修道院”な雰囲気、JECの牧師たちが献身してきた場であり、何かその流れに触れるかのような感覚がそこにあった。そしてある高校生やサブ・リーダーたちは将来自分も神さまによって召し出され、フルタイムの奉仕に導かれるかもしれないという期待・夢・ビジョンを描かされる、あたかもシナイ山で燃える柴からの語りかけを聞くモーセにも似た畏怖の念もそこにあった。

そこで、JECの諸教会や諸集会において、すでに断片的に語られてきたメッセージというものを、高校生スプリング・キャンプという特殊な場が、JECにおける福音理解を集大成するかのよう機能してきた。主としてJEC内部の先生方とスタッフがキャンプ全体の流れと必要にそって語るののであるが、その作業のプロセスが、石膏の中に埋もれた作品を彫刻家が掘り出し芸術品を生み出していくように、JECにおける福音理解の全体像を浮き彫りにしていったように思う。

JECにおける福音理解とはどのようなものなのであろうか。我喜屋師は「十字架と聖霊」と簡潔に多くの集会で語ってくださった。あるときは「十字架によって整理し、聖霊によって管理される」と語られた。まるで芸術家のように「福音」という作品を語られるので、聞くものはみな恵まれ、取り扱いを受ける。しかし、あまりに巧みに語られるのでこれは真似ができないという印象ももった。わたしたちのような中堅や若手の教職者は我喜屋師のメッセージをオウムのように繰り返しても同じ霊的結果をえることはできない。ことばの表面を継承するだけでは、実質を継承することにはつながらない。一体どのようにすれば、JECの流れを実質的に継承していくことができるのだろうか。そこには多くの側面があると思われるが、まずはJECの流れとは何であるのかというルーツとアイデンティティを平面的にのみではなく立体的に描き出していく作業に取り組むことである。

わたしが常に課題としてきたことはここにある。JECの流れの中で救われ、養われ、育てられてきた。そして今わたしたちがJECの流れを継承し、深化し発展させるべき時期にきている。わたしの問いはいつも、JECのアイデンティティとは何なのであろうか、ということであった。これを掘り下げることなしには、深化・発展どころか継承さえもおぼつかない。この重荷が芽生えてきた頃、わたしは一冊の書物に出会った。宇田進師の「福音主義キリスト教と福音派」というルーツとアイデンティティを探求する書物であった。この本は、普通の書籍ではなかった。普通の書籍は自己主張、教派的主張が多かったり、反対に客観性と中立性を重んじるあまりに自己との関わりを見出せなかったりする場合が大半である。宇田師の書籍の特徴は、わたしたちがJECのルーツとアイデンティティを探求する作業をするときのアドバイザーのような働きをする書籍である。( )わたしはこの書籍を用いてKBIで講義を担当している中で、JECの神学的・教理的、歴史的、社会的・文化的なルーツとアイデンティティについての明確な理解をえた。この事柄については、KBI講義ファイル「福音主義キリスト教研究」の中で詳細な記述に取り組んでいる途中であるので、関心のある方はそれらを継続的に読んでもらいたい。また分からないところや質問などがあればメールをいただければ24時間以内に返信させていただけると思う。ただ、このページにおいては、歴史神学の視点からのJECのアイデンティティについての包括的理解は扱わないで、JECスプリング・キャンプにおける神学の輪郭のみに限定して記述をすすみたい。

J E Cにおける神学的アイデンティティをスプリング・キャンプにおいて語られてきたメッセージとその構成の流れの中に読み取ろうと試みているわけであるが、これがJ E C神学の決定版とは思わない。K B Iニュースの一面にも書かせていただいたが、J E CとK B Iの流れは、神学における論理性・体系性・中庸性を特徴とする穏健カルヴァン主義（この事柄については「弁証学研究」において記述する予定）の上にホーリネス的強調とペンテコステ・カリスマ的強調を加えたものである。この流れには包容性と柔軟性があるので、伝統的神学を継承しつつ、新たなムーブメントから多くことを学び、吸収しつつ、その神学を深化・発展させていく特徴をもつからである。

つまり、現在J E Cの流れがこのようであるからということで、その地点でどんよりとしたたまり水のようににはならないのである。大きな河川は大海に注ぎ込むまでは、いろんな地点において多彩な地域から流れ出た支流を吸収しつつ流れを形成していくからである。J E Cの流れは、今後さらに多くの流れを吸収していくであろう。ただひとつ確かなことは、カトリックとプロテスタントの間を揺れ動き、最終的にその”中道の道（ヴィア・メディア）”を歩むようになった英国の聖公会がそうであるように、オレブロ・ミッションから継承してきたバプテストの体質（この事柄については「信条学研究」において記述する予定）に根ざすJ E Cは、神学的にはカルヴァン主義とアルミニウス主義の中道を、ホーリネス的強調においては漸進主義と危機主義の中道を、ペンテコステ的強調においてはペンテコステ派と第三の波の中道をとという具合に、両極端の考え方を柔軟に包摂しつつ常に”中道の道（ヴィア・メディア）”を歩み続けるのではないかと思っている。

ただ、J E Cのような神学的体質をもつ群れは、画一的な教理体系をもたないわけであるから、個々の教職者の神学的主体性が確立されることが肝要である。もしそうでなければ大海に浮かぶ木片のように、次々と生起しては消えるムーブメントに翻弄される危険がそこにある。よい例話ではないが、J E Cのような群れは米軍のもつ、空飛ぶレーダー基地といわれるAWACS（早期警戒機）のような機能が求められる。群れの中には世界の種々の神学的動向の分析・評価する機能、種々の聖霊運動・ヴィンヤード、トロント、ペンサコーラなど、教会成長運動・セルグループ、小牧者運動等、さまざまな状況についての情報や動きに常にレーダーの網をはっておいて的確な情報を提供していく仕組み、体制が求められる、肯定的には学びの材料の提供であり、否定的には危険を察知し逸脱を防ぐためである。またひとりひとりの教職者には、地形を記憶しておいてピンポイントで目標を攻撃しうるトマホークのように、状況というコンテキストに新たな情報を生かして柔軟で適切な奉仕のできる機能が求められる。

我喜屋師は、パワーエヴァンジェリズムを評して「刀を振り回した後、十字架という鞘におさめる」ことが大切であると語られた。種々のムーブメントから学び、伝道と教会形成の契機とすることにJ E Cの中堅の先生方は意欲的である。しかし多くの活動的な奉仕の後に立ち返るところはいつもJ E Cの福音理解の中心である「十字架」である。なるほどと教えられるのであるが、J E Cにおける十字架理解というものを立体的に掘り下げる作業はまだ十分ではないと感じている。

JECにおける福音理解は、高校生スプリング・キャンプにおいて表現されていると記述してきた。ではこの福音理解をどのようなプロセスを通して立体的に掘り下げればよいのだろうか。ひとつの方法は、個別から普遍へと向かう方法（アリストテレス的方法）である。もうひとつの方法は、普遍から個別へと向かう方法（プラトンの方法）である。

つまり、JECの身近な材料、資料から歴史的にさかのぼっていく方法である。それによれば、第一に我喜屋師の福音理解の資料源は何かを特定する必要がある。我喜屋師は、一番影響を受けたものとしてウォッチマン・ニー著作集をあげておられた。そこで第二に、ウォッチマン・ニーとその著作集の背景を特定し、それを分析することが必要である。

ウォッチマン・ニーとその著作をトータルに分析している良書に、ダナ・ロバーツの "[Understanding Watchman Nee](#)" がある。彼の誕生の背景、教育、神学教育、影響を受けた著作、奉仕と出版された著作とその分析・評価などが記述されていて重宝な内容となっている。その中で、「キリスト者の標準」の背景が記されている。"A devoted reader, Nee took advantage of Miss Barber's library. There he availed himself of much of the holiness literature influential in Great Britain as a result of the Keswick Movement and the Welsh Revival." "His theology is totally that of the Keswick teaching, with a gracious and illustrative style equal to that Andrew Murray and F.B. Meyer."彼の著書「キリスト者の標準」は、ケズィック聖会におけるローマ書の講解であると。わたしは、この記述から「ケズィック運動」に興味をもち、その関係の書籍を収集することとなった。

ケズィック運動については、J.Robertson McQuilkinが"Five Views on Sanctification"という書籍の中で「ケズィックにおける聖化理解」を簡潔に紹介しているので参考にしてほしい。ケズィック運動は歴史神学の視野から位置付けると、宗教改革とその神学的遺産を集大成した正統主義神学の時代に続く敬虔主義運動にルーツをもつ。

敬虔主義運動は、ヨーロッパ大陸のルター派、改革派内における霊的刷新運動（シュペナー、ファンク、アルト、ヴァンティウス、ツィンゼントルフ、ベンケル、ホルデン、ゴデー、ルズビエー、ブルムハルト父子）、英国における宗教改革運動であるピューリタニズム（バックスター、オーイン、ベイルー、バニヤン、コット、ルサフォード、シブス、パーキンス、エイズ、プレストン）、近代の福音的信仰覚醒運動（ウェスレー兄弟、ホイットフィールド、テネット、フリントホイズン、エドワード、ウィルバーフォース、ケアリ、スプリング、ライル、ムーディ、ダグビー、ミューラー）、19世紀以降の聖霊派運動（フィン、マレー、ブー、チェンバース、シンプソン、トザー、トラー、マヤ、ウォッチマン・ニー）などがある。これらの敬虔主義運動の霊的遺産のいくつかは、邦訳されキリスト教書店にて手に入るのので、JECにおいてもかなり読まれているものと思う。

JECにおける十字架理解、特にホーリネス的強調についての研究のためには、敬虔主義運動の研究を欠かすことはできない。今日のすぐれた神学者のうち敬虔主義運動の研究者としては、J. I. パッカーとD. プローシュをあげることができるだろう。このふたりのホーリネス的強調に関する著作の研究はわたしのもうひとつのライフワークを構成している。このふたりの著作についての継続研究のファイル集も徐々に形成していく予定である。

# 組織神学とK B I

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [バプテストの信条](#) ] [ [W. ニー著作背景](#) ] [ [ケズィック運動](#) ]  
[ [歴史神学の視点](#) ] [ [S P キャンプ神学](#) ] [ [S P キャンプメモリ](#) ] [ [組織神学とK B I](#) ]  
[ [義認と聖霊のB P](#) ]

---

日本福音教会あれこれ

## 組織神学の視点からみたK B Iの流れ

04/03/22

---

このファイルは、K B Iで担当している科目の紹介のページですすでに書き綴っていたものであった。いつものようにK B Iでの講義をおえて応接室でお茶をいただきながら高橋師と談話のひとつときがあった。そのときの「K B Iのアイデンティティについて」の会話の中で、高橋師より「それを原稿にしてK B Iニュースに書いてください。」の依頼により、以前のファイルに少し手をいれたものである。紙面の都合上限られた記述となったが、**エッセンシャルな（本質的なポイントの）描写**はできたのではないかと思う。

いくつかのポイントについては、もう少し詳しい描写をしないといけないと感じている。このK B Iニュースの原稿を契機にふだんからわたしの考えている事柄をさらに詳しく記述させていただけたらと思う。この原稿は、たとえばみれば**扇の要めのような原稿**である。そうであるから、当然のごとく**扇の展開がともなうべき**である。

このファイルは「K B Iあれこれ」と題してシリーズものにしようかと考えたが、K B IはJ E Cのものであって、J E Cのものでないようなところがあり、つまり**いくつかの団体との共同運営であるのでセンシティブ（敏感で微妙）なところがある**。K B Iという名を使う場合、その事柄に関してのコンセンサスが必要とされ、その発表には了解がともなうのである。

しかし多くの思索すべき事柄があるのに、沈黙を守るとすれば、神学的領域に重荷をもつものとしては咎を負うものとされるであろう。そこで、わたしの記述は少し限定された意味において、つまり**K B Iの流れにおけるJ E Cの関わっている部分についてはかなり積極的に語る**ことができるであろうというものである。その意味において、あえて「K B Iあれこれ」シリーズをさけて「J E Cあれこれ」のシリーズの中で、**K B Iの使命に貢献してきたJ E C、また現在も将来においてもK B Iの使命達成に貢献し続けるであろうJ E Cの役割の部分の描写**に力を尽くしたいと思うのである。 .



## 1. 組織神学の新しいテキストの紹介

組織神学については、M.J.エリクソンの"[Introducing Christian Theology](#)" (Christian Theologyの要約版) をテキストとして使用させていただいている。このテキストは、KBIの流れにそった**伝統的神学**を継承し、**今日的視野**をもつ最も新しい組織神学書のひとつであるとともに、**説教の材料の宝庫**でもある。エリクソンは、スウェーデン・バプテスト系アメリカ人であり、超教派的な福音主義者であるとともにバプテストの流れに忠実な神学者である。わたしの所属教派JECのルーツもまた、スウェーデン・バプテスト系であるので共感を覚える。彼の神学的立場は**穩健カルヴァン主義** (論理性、体系性、中庸性を特徴とする) であり、KBIでテキストとして使われてきたヘンリー・シーセンの組織神学の立場と同じである。

## 2. 二つの特色の底流にあるもの

JECの第一世代の先生方は、関西聖書神学校(塩屋)で学ばれた結果として「**きよめ派**」の**ホーリネス的強調**が顕著である。特に我喜屋師の「**十字架のメッセージ**」はKBIを特色づけてきた。また、KBIをささえておられる教派はおもに**ペンテコステ・カリスマ派**であり、**ペンテコステ・カリスマ的強調**、すなわち**聖霊の経験とその賜物の強調**が明白である。これらKBIを特色づけるふたつの要素の底流において、歴代の卒業生によって形成されるKBIの流れは、組織神学の視点からみてどのように表現できるだろうか。わたしが思うには、意識するせざるにかかわらず大局的にみて、おもだって教鞭をとってこられた高橋院長の「**ヘンリー・シーセンの組織神学**」により**穩健カルヴァン主義**に強く影響されており、KBIの流れが神学的に**排他的ではなく包括的**であり、**穩健で中庸なバランスのとれた流れ**として形成されてきた恵み(世界各地からの種々の新たなムーブメントへのオープンな、それから学ぼうとする態度と、それらを絶えず**救いの秩序 " オールド・サルティス "**の全体図の中に**位置づけて理解**することにおいて聖書的・福音主義的公同性を遵守し、逸脱から常に守られる神学的センスの保持という側面)がそこにあるように思う。

## 3. 包容力と柔軟性の源

そのような神学的素養をベースとして、ホーリネス的強調とペンテコステ的強調がバランスよく教えられている。ホーリネス的強調には、**アウグスチヌス的理解** (漸進的聖化) と**メソジスト的理解** (危機的聖化) の幅があり、その**折衷的理解**としての**ケズィック的理解** (ウォッチマン・ニー「**キリスト者の標準**」) がKBIにおける共通項であるように思われる。ペンテコステ的強調は、派遣されてくる教派と学生の背景の多様性から、**ペンテコステ派の理解**と**カリスマ派の理解**そして最近では**第三の波の理解**のそれぞれの理解が尊重されるかたちで柔軟に対処されているようである。KBIはひとつの型(パターン)にはめ込むところではなく、それぞれの神学生が**出身教派の教えに忠実で有益な働き人となる**ように柔軟で豊かな神学教育をする場所であるから。このような多様な立場や考え方を受け入れる**包容力と柔軟性**はどこからくるのであろうか。それは**信条よりも聖書そのものを第一義的に考え、組織としての画一的**

な信仰のあり方よりも個々の教会や個々の信仰者の信仰の多様性とそこにある主体性を重んじる**バプテスト的な体質**をもつJECに、さらにさかのぼればスウェーデン・バプテスト系オレブロ・ミッションに由来しているのだと思う。

#### 4. 排他的ではなく包括的な神学

エリクソンの組織神学は、**人間論**においては「**条件つき統一性**」の概念を提起し、**予定論**に関しては**カルヴァン主義とアルミニウス主義**を併記し公平な評価を付記している、**終末論**に関しては**プレミレニアリズムの立場**をとっている。議論の仕方は常に、**排他的ではなく包括的**であり、わたしたちの体質とじっくりいくものを感じる。エリクソンとわたしたちの立場との唯一の相違点は**聖霊論**の章の「**奇跡的賜物**」の箇所である。エリクソンは学者として**中立の立場からカリスマとアンチ・カリスマの立場を両論併記し読者の判断に任せている**ので、わたしたちは**ペンテコステ・カリスマの立場から対論形式で学ぶことが肝要である**と考える。

#### 5. 電話帳のようではなく讚美歌のよう

テキストは英語であるが、日本語よりも分かりやすい内容であり、いつも思うことだが不思議な書物である。講義した後、少なからずの学生から「組織神学って、難しい科目かと思っていましたが、**本当に分かりやすく興味深い科目**なんですね。」という声を耳にしてきた。しかし軽い内容の書物ではない、**福音主義神学の歴史的遺産と今日の思想・哲学・神学との接点**を明らかにしている点で高度な内容をようしている。今日のアメリカのキリスト教大学や神学校で教派を越えて「**基準的**」な**組織神学書としての地位**を得たこのテキストは「**無味乾燥な電話帳のようではなく、魂のこもった讚美歌**」のようである。わたしは預言者ではないがひとつのことを確信している。エリクソンのテキストはそう遠くない将来、日本の改革派、ルター派、ホーリネス派、ペンテコステ・カリスマ派のかなりの神学校において「**基準的**」な**組織神学のテキスト**として採用、もしくは**主要な補助テキスト**として活用されると。主からの重荷として、わたしの**走るべきひとつの行程**として、**今後十年はエリクソン著作集の研究にあけくれることになるだろう**と覚悟している。英語に少し難のある学生のために概要理解のためのプリントと翻訳・解説のテープを作成中である。関心のある方には実費でさしあげているので、連絡をいただきたい。( .0790-63-0252 )

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ(カ)

# 義認と聖霊のB P

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [バプテストの信条](#) ] [ [W. ニー著作背景](#) ] [ [ケズィック運動](#) ]  
[ [歴史神学の視点](#) ] [ [S P キャンプ神学](#) ] [ [S P キャンプメモリ](#) ] [ [組織神学とK B I](#) ]  
[ 義認と聖霊のB P ]

---

日本福音教会あれこれ

## 義認と聖霊のバプテスマ

概念整理の枠組み

04/03/22

---

このファイルは、K B I ニュースの原稿として最初に書き上げたものであったが、扱いの領域が少し狭いと感じたので前のページの「組織神学の視点からみたK B Iの流れ」と差し替えたのである。D. ワトソンの箇所は、十数年前に岬福音教会25周年記念誌に掲載させていただいた論文の一部である。最近のK B Iの組織神学の講義において、「[救いの諸概念](#)」の章でH. キュンクについての言及を分かち合ったときに、D. ワトソンのことを思い起こした。[神学論争の構図](#)を描き出すための類比として興味深かったので、この機会に原稿にまとめてみたのである。論争自体は少し古いと思うのであるが、[概念整理の枠組みの視点](#)は新鮮だと思う。埋もれさせるには惜しい原稿なので、ここに掲載させていただくことにした。

### 1. 今日のカトリック神学の動向

エリクソンの組織神学のテキストに「[今日のカトリック神学](#)」の動向についての記述がある。「救いの性質に関して教会内における議論が存在する。古典的プロテスタントの義認に対するより開かれたものが存在する。この点に関して、カトリックの神学者[ハンス・キュンクの](#)[カール・バルトの神学](#)についての研究は特に重要である。過去において、カトリック主義はプロテスタントが義認と聖化と呼んできたものを「[義化する恵み](#)」というひとつの概念の中に融合させてきた。しかしながらキュンクは義認の客観的側面と主観的側面について語る。前者はプロテスタントが通常、義認として言及するものと一致する。後者はおおよそプロテスタントが通常、聖化と呼んでいるものと一致する。キュンクは、トレントの公会議が後者を強調したのに対して、バルトは前者を強調していると考察している。それゆえ、バルトとトレントの間には軋轢は存在しないのである。」キュンクの指摘は、プロテスタントの宗教改革とカトリックの反宗教改革闘争における「[義認論争](#)」の誤解されている概念の整理の必要性である。わたしはこれと同じことがカリスマとアンチ・カリスマの「[聖霊のバプテスマ](#)」の論争に関していえると思う。

## 2. 「端緒」と「満たされる」 - 両方の意味

英国聖公会の著名なカリスマの指導者デビッド・ワトソンは「すべてのクリスチャンは『全クリスチャンが聖霊を所有している』ということに賛同する。すべてのクリスチャンは、『必ずしも、すべてのクリスチャンが聖霊に満たされているわけではない。』ということに賛同する。全てのクリスチャンが『聖霊のバプテスマ』という表現に賛同しているわけではない。しかし、正しい観点をもっているものであるなら、互いにもう一方の立場を認め合うことができる。『バプテスマ』という用語は、疑いなく、クリスチャン生活の端緒に結びつけられている。少なくともその意味において、全てのクリスチャンはすでに聖霊のバプテスマを受けている。それは持てる者と持たない者の問題ではない。私たちがキリストにあるや否や、私たちはすべてものを所有している。少なくとも潜在力において。『バプテスマ』とか、『バプテスマを受ける』という用語は、豊かな表現である。『バプテスマを受ける』という言葉は『端緒となる』という意味と、『満たされる』という意味の両方で話されている。前者は客観的立場についての説明であり、後者は主観的経験についての説明である。混乱は、一方が他方の損失において強調されるときに生じる。たとえば、クリスチャン生活の端緒から全く別個の経験として聖霊の満たしが考えられる場合に混乱が起こる。ただ経験的には必ずしも一つではないけれども、理論上また潜在的には一つである。他方で聖霊の満たしは全く経験されていないのに、クリスチャンはキリストへのバプテスマを受けることによって『そのすべてを得た』と強調される場合に起こる。最後の分析において、最も大切なものは聖霊の愛の力と臨在であって用語ではないということである。

## 3. 聖霊の満たしと力の目的

もちろん、聖書的な言葉や用語の使用において不注意であってよいといっているのではない。今はこのことを棚上げにしておこう。というのは、私たちが用語上の論争(これは第一の重要度のものではなく、第二のものである)をして、(第一のものを見失って)凌ぎを削っているという非常に大きな過ちをおかしているからである。そして聖霊が私たちの態度の全体を悲しんでおられるという状況があるからである。私たちは間違った態度でいとも簡単に正しい用語をもつかもたない。しかし、そのとき聖霊は彼が欲するようには私たちを通して働いてくださらないのである。聖霊の満たしと力の目的の全体は、イエスのための大胆で効果的な証人となることである。」霊的生活の貧困はなぜなのかというクリスチャン生活の問題、また開拓伝道、教会形成、神学教育の三要素を整合したバランスの上になされる世界宣教の強力な推進という力の源はどこにあるのかという宣教上の課題と取り組むことなしになされる用語上の論争ほど無意味なものはない。また逆にその部分に真剣に取り組まれてなされる用語上の議論は教派間で盲点となっている部分に光をあててくれるという点で有益である。

## 4. 概念整理の枠組み

ハンス・キュンクの客観的立場と主観的経験の概念の整理がプロテスタントとカトリックの「義認論争」において開放的な地平を切り開いているように、デビッド・ワトソンの客観的立場と主観的経験の概念の整理もまたカリスマとアンチ・カリスマの「聖霊のバプテスマ論争」における概念整理のためのフレーム・ワーク(枠組み)を

提供している。

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ(カ)

---

# A T A 修士論文

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [JECの神学的座標軸](#) ] [ [J E C の源流と遺産](#) ] [ [JEC教職者セミナー](#) ]  
[ A T A 修士論文 ]

## [序論](#)

### [1章 序](#)

#### [教派性と公同性](#)

#### [共通概念の形成](#)

#### [背景と強調点](#)

#### [考察の範囲](#)

### [1章 注](#)

### [2章 序](#)

#### [ダンの研究方法](#)

#### [解釈学的螺旋視点](#)

### [2章 注](#)

### [3章 序](#)

#### [ダンの結論](#)

#### [構造主義人類学洞察](#)

### [4章 序](#)

#### [ダンの異言理解](#)

#### [総括的考察](#)

### [4章 注](#)

## [結論](#)

## [付記](#)

## [付記](#)

---

James.D.G.Dunn の  
” Jesus & The Spirit ”  
に関する一考察

---

## 内 容 一 覧

### [巻頭のことば](#)

### [推薦のことば](#)

### [謝辞](#)

### [. 序論](#)

#### [私の霊的系譜と論文の動機](#)

#### [共立基督教研究所への導き](#)

#### [論文の目的、範囲、研究方法、そして手順](#)

### [注](#)

### [. 本論](#)

#### [第1章 福音派の聖霊論の課題におけるダンの「イエスと御霊」](#)

### [序](#)

#### [1章梗概](#)

#### [第1節 福音派における聖霊論の動向 - 教派性と公同性の課題](#)

#### [第2節 福音派の聖霊論をめぐる建設的対話と共通概念形成](#)

#### [第3節 J . D . G . ダンの「イエスと御霊」の背景と強調点](#)

#### [第4節 J . D . G . ダンの「イエスと御霊」の考察の範囲](#)

### [注](#)

#### [第2章 ダンの「イエスと御霊」の研究方法についての考察](#)

### [A . 序](#)

## 2 章梗概

### B . 翻訳とその抜粋・整理

#### 第 1 節 研究材料

#### 第 2 節 研究方法

#### 第 3 節 研究目標

### C . 考察

#### 第 4 節 ルネ・パディリアの解釈学的螺旋の視点からの考察

##### (a) 解釈者の歴史的状況

##### (b) 解釈者の世界観

##### (c) 聖書

##### (d) 神学

#### 注

## 第 3 章 ダンの「イエスと御霊」の結論についての考察

### A . 序

## 3 章梗概

### B . 翻訳とその整理

#### 第 1 節 イエスと初代のクリスチャンの宗教的経験

#### 第 2 節 クリスチャンの経験の本質と性格

#### 第 3 節 共同体の四つのモデルとパウロの注解、チャレンジ

#### 第 4 節 キリスト教神学と宗教的・カリスマ的経験の関係

### C . 考察

#### 第 5 節 レヴィ = ストロースの構造主義人類学の洞察（類比）からの考察

##### (a) 歴史主義人類学の洞察から

##### (b) 機能主義人類学の洞察から

##### (c) 構造主義人類学の洞察から

#### 注

## 第 4 章 ダンの「イエスと御霊」の異言理解についての考察

### A . 序

## 4 章梗概

### B . 翻訳とその整理

#### 第 1 節 靈感された賛美

#### 第 2 節 灵感された祈り

#### 第 3 節 異言

### C . 考察

第4節 総括的考察

(a) ダンの解釈にみる解釈学的螺旋の視点

(b) ダンの解釈にみる構造主義人類学の洞察

注

結論：福音派聖霊論への一指針としてのダンの「イエスと御霊」

第1節 要約

第2節 カリスマ的共同体のビジョンと20世紀の教会

第3節 世界宣教への台頭に伴う健全な評価と位置付け

第4節 福音派聖霊論への一指針としてのダンの「イエスと御霊」

注

付記

第1節 世界の福音派の会議の動向

第2節 米国福音派神学校の動向

第3節 日本の神学研究会の動向

付記

第1節 ダンの学問研究のスタイル

第2節 解釈学の新しい道におけるダン

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号：01110-0-15025 加入者名：一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名：イーバンクギンコウ（カ

---



# J E Cの源流と遺産

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [JECの神学的座標軸](#) ] [ [J E Cの源流と遺産](#) ] [ [JEC教職者セミナー](#) ]  
[ [A T A修士論文](#) ]

[アイデンティティ](#)

## J E Cの源流と歴史的遺産

05/10/26

「J E Cの源流と歴史的遺産」シリーズは、2002年4月から一年間にわたって日本福音教会の機関紙である「J E Cニュース」に連載させていただいたものです。この内容は、私が関西聖書学院で「福音主義神学」という歴史神学（教会史・教理史）の応用学としての科目を担当させていただく中で、神学生とともにそれぞれの「所属教派のルーツとアイデンティティ」を探求していった足跡を、J E Cの脈絡において再整理したものです。まだ探求の途上にある内容ですが、みなさまの「J E C理解」の一助としていただければ幸いです。この内容に関連する資料としましては、関西聖書学院「福音主義神学」講義テープ、日本福音教会50周年記念誌小論文、日本福音教会補教師セミナー録音テープ等にも収録されています。必要な方はメールください。また、下記に「J E Cニュース」の記事を掲載しますとともに、その紙面では十分に記述できなかった「発展的な内容」を並行して詳述させていただきたいと思えます。詳述の部分は有料配信しています。関心のある方には「パスワード」をお知らせしますのでメールください。

1. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 三つの重要な要素とJ E C - :  
J E C理解の鍵、J E Cの全体像、エバンジェリカルの意味、三つの重要な要素（閲覧用PDF:パスワード不要）

04/06 [福音派对カリスマ派という対比における盲点について](#)

04/13 [福音派の定義、福音主義同盟の歴史的背景、9項目の信仰の表明](#)

04/20 [ローザンヌ会議の歴史的背景、分岐点としてのエジンバラ会議](#)

04/27 [J E Cの背後にある特定の歴史的運動について](#)

2. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 使徒的キリスト教とJ E C  
- : “エバンジェリカル” J E C、使信（メッセージ）そのもの、主イエスこそ福音そのもの、福音の五つの基本的要素、割引も水増しもせず（閲覧用 PDF:パスワード不要）

05/11 [激しい視聴率競争による信者と献金の獲得競争は使信よりも](#)

05/18 [人間の想像の産物とか、人間の内的神秘的体験というものではなく](#)

05/25 [みずからの生命を犠牲としてささげますという献身と決意の告白](#)

3. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 古代教会の正統信仰とJ E C  
- : 信仰心か信仰の対象か、神秘主義的信仰ではなく信仰告白的信仰、教会内に組織神学的活動始まる、公同信条の内容、あらゆるところで・常に・すべてによって（閲覧用 PDF:パスワード不要）
4. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 宗教改革の三大原理とJ E C : 聖書のみ、信仰義認、聖徒の交わりとしての教会、宗教改革の子孫としてのJ E C（閲覧用 PDF:パスワード不要）
5. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 宗教改革の四つの流れ、会衆派ピューリタンとしてのJ E C、バプテストとしてのJ E C、スウェーデン・バプテスト教会の始まり、スウェーデン・バプテスト教会の幅広い体質はJ E Cの中にも（閲覧用 PDF:パスワード不要）
6. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 信条の出現とJ E C、プロテスタント教会の信条：プロテスタントとしてのJ E Cの自覚、信

条の意味・意義：プロテスタントとしての信仰の根源、バプテ  
スト派の特質を宿す群れとしてのJ E C（閲覧用PDF:パスワード  
不要）

7. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 17世紀正統主義神学とJ E C、宗教改革の果実の組織化・体系化、J E Cの神学体系の基本的根幹のルーツはここに、17世紀正統主義神学とJ E C神学との連続性、J E Cのそして福音派全体の基準的な組織神学書、J E Cの必読書・最良の組織神学書・通読を推奨される書籍（閲覧用PDF:パスワード不要）
8. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 敬虔主義の遺産とJ E C、敬虔主義運動の特色的な遺産、ウォッチマン・ニーの「キリスト者の標準」、ウォッチマン・ニーとその著作の評価、「敬虔主義運動の遺産」を継承・深化・発展させる群れとしてのJ E C（閲覧用PDF:パスワード不要）
9. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 自由教会型キリスト教とJ E C、自由教会（フリーチャーチ）型キリスト教とは、自由教会型キリスト教の特徴と課題、自由教会型キリスト教のもつ課題とその課題、「自由教会型キリスト教としてのJ E C」のもつ課題の整理、「自由教会型キリスト教としてのJ E C」の課題克服の手がかり
10. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - 近代のリベラリズムとJ E C、18世紀の啓蒙思潮とは、啓蒙思潮を背景にした19世紀の自由主義（リベラリズム）とは、20世紀におけるプリンストン神学校のリベラル化事件、福音主義同盟結成の歴史的背景、J E Cと福音同盟加盟問題の経緯、「福音派」についての誤解と真の定義、歴史的必然としてのローザンヌ誓約への応答
11. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - エリクソン博士とJ E C、エバンジェリカルとしてのJ E Cの特色、J E Cの特質を組織神学のかたちで表現したら、J E C拡大教職者会：J E Cの“空気”にかたちを与える時、関西講演会（一般公開）：あなたも神の創られようとする歴史の目撃者の一人に
12. [J E Cの源流と歴史的遺産](#) - J E Cの神学的特徴：歴史神学の視野から、そして組織神学の視野から、J E Cとエリクソン

の神学：良き伝統を継承・深化・発展させる軌道の敷設、“継続神学教育機関”としての一宮基督教研究所の新たな挑戦は続きます。

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp)： 郵便振替口座番号：01110-0-15025 加入者名：一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名：イーバンクギンコウ（カ）

---

---

一宮基督教研究所

## K G ・ K B I ・ 岬福音教会の時期に作成した資料

00/05/25

---

1. [関西学院大学の時期](#)
  2. [関西聖書学院の時期](#)
  3. [岬福音教会の時期](#)
- 

### 関西学院大学経済学部大学生の時期の論文

- ・ 「天職意識の喪失過程 - イギリス経済とその宗教的基盤の変貌における - 」

約20年前の論文なので、手元にはありません。しかし、[天川教授の論文集](#)の継続研究のコーナーをつくりましたので、そちらで宗教社会学的思考について紹介したいと思います。

---

### 関西聖書学院神学生の時期の小論文

- ・ 「祝福の約束と律法 - 海面下のガラテヤ3, 4章 - 」  
- 新旧約聖書理解の基本的視点についての初歩的考察 -
- 

### 日本福音教会・岬福音教会牧師の時期にまとめた諸資料

岬福音教会の牧師の七年間は、R・H・カルペッパーの「カリスマ運動を考える」とその重要参考文献一覧表をもとに世界各地から関係資料（ペンテコステ派、カリスマ派、ペンテコステではないが好意的、アンチ・ペンテコステなど）を収集し、必要にせまられるかたちで下記のさまざまな資料をまとめた時期であった。

今世紀初期からのペンテコステ運動、今世紀中期からの伝統的教派内でのカリスマ運動、今世紀後期からの保守福音派内での第三の波の運動がある。フレッド・スンベリ師は「K B I (関西聖書学院)は、カリスマ運動である。」といわれたことがあるが、それはK B Iの実体をよくあらわしていると思う。ただ学生はペンテコステ・カリスマ・第三の波の諸教会から送られてきている。K B Iには**三つの流れからの学生を受容し、教育するキャパシティ**が存在する。

そのような**それぞれの教会のもつ主体的な信仰のあり方を尊重するスピリット**は、どこからきているのだろうか。それはK B Iを担っている主要な団体のひとつである日本福音教会の「**バプテストの体質**」に由来するものと思う。**信条中心ではなく聖書中心**であること、**教派中心ではなく集められた個々人の主体的信仰によって形成された地方教会が中心**であることからきていると思う。そのような脈絡からK B Iもまた**穏健なカリスマ運動**としての色彩を基調としつつ、ペンテコステ・カリスマ・第三の波の諸教会から送られてきた学生によりカラフルな色どりを示しているのである。

主題・説明文・集会名・期日	L O
1 . 「 <b>聖霊のバプテスマの神学と経験に関する一考察</b> 」 - 保守福音主義神学とペンテコステ的経験の接点の模索 - (岬福音教会設立25周年記念文集論稿 1985 . 11 . 3)	480
2 . 「 <b>今、福音派は聖霊について何を考えているか</b> 」 - 聖霊の働きと世界宣教に関してのオスロ会議をめぐって - (JECニュース 現代福音主義セミナー・レポート 1985 , 1986)	300
3 . 「 <b>カリスマ的刷新に関する神学的・牧会的オリエンテーション</b> 」 - 現代世界の福音派の諸潮流におけるJECの位置 - (JEC牧師会講演 1986 . 3 . 3)	480
4 . 「 <b>カリスマ的刷新における聖霊のバプテスマ</b> 」 - 聖霊のバプテスマの意味・体験・管理への助言 - (JEC高校生スプリング・キャンプ分科会 1986 . 3 . 27)	150
5 . 「 <b>霊の賛美と祈りに関する聖書的・教会史的考察</b> 」 - 礼拝の中での「霊の賛美と祈り」の意味・管理指針 - (JEC春期合同聖会 分科会 1986 . 5 . 3)	540
6 . 「 <b>高校生クラスづくりの宣教的観点からの分析</b> 」 - 潮の干満の中で生きる「人間をとる漁師」の実践の整理 - (JEC高校生教師研修会講演 1986 . 9 . 15)	240
7 . 「 <b>ペンテコステ的経験のフレーム・ワークの模索</b> 」 - 聖書的・歴史的・文化的・戦略的枠組みづくり - (KBIワーカーズ・セミナー講演 1986 . 10 . 29)	720
8 . 「 <b>歴史と神学の流れにおける聖霊のバプテスマの理解</b> 」 - グローバルな視野からのカリスマの流れの評価と展望 - (JEC婦人リーダー研修会講演 1986 . 11 . 17)	240

<p>9 . 「世界宣教の現況とJECの果たすべき役割への提言」 - 錯綜と変貌する世界における世界宣教資源蓄積の必要 - (JEC理事会への提言 1987 . 1 . 21)</p>	
<p>10 . 「二十世紀の教会と聖霊の働き」 - 天上のイエスの地上的顕現としての聖霊の現臨における教会 - (南大阪福音教会 クリスチャン訓練学校セミナー)</p>	
<p>11 . 「JECの教会観」 - 真に聖書に根ざし、かつ今日のさまざまな信仰運動を踏まえた、 世界宣教推進のための新しい教会観と教派観の共通理解をめざして -</p>	210
<p>12 . 「第三の波の研究」資料室蔵書 - 「ペンテコステ・カリスマ・第三の波」の聖霊論・深みと共同性のある 福音主義神学・フラーの宣教学関係・等の書籍一覧 -)</p>	240
<p>13 . 「新旧約聖書から概観した聖霊の賜物の考察」 - アーノルド・ビットリンガーによる第一コリント12章の研究 - (岬福音教会 聖書研究祈祷会 資料)</p>	330
<p>14 . 「イエスと御霊」研究 - 新約聖書に反映されているイエスと初代クリスチャンのカリスマ的 経験の研究 - (岬福音教会 聖書研究祈祷会 資料)</p>	600
<p>15 . 「福音理解と魂の理解の深化をめざして」 - JEC高校生教師研修会資料 - (1988 . 9 . 15)</p>	30
<p>16 . 「天皇の代替わりの日とクリスチャンとしての備え」 - 起こるべき事態の輪郭を予測する者にとっては、その衝撃波を最小 限に - (岬福音教会クリスチャン訓練学校 1988 . 11 . 23)</p>	150
<p>17 . 「ミドル・ゾーン研究に関する一考察」 - その期待と懸念 - (共立基督教研究所 研究科課程 小論文)</p>	420
<p>18 . 洗礼準備会テキスト</p>	300
<p>19 . 「『菊と刀』の方法論についての一考察」 - 「文化人類学的宣教論」の導入的知識の整理のために - (共立基督教研究所 文化人類学レポート 1989 . 6 . 25)</p>	390
<p>20 . 関西聖書学院「宣教学」講義ノート - 現代宣教学概観 - (1987 , 1988年度講義ノート)</p>	

一宮基督教研究所

## 共立基督研究所・東京チャペルの時期

04/03/22

### 日本福音教会・堺福音教会東京チャペル副牧師の時期にまとめた諸資料

堺福音教会東京チャペルで奉仕させていただきつつ、共立基督教研究所にて神学と宣教学の研鑽に三年間専念する機会をいただいた。この時期における課題は、バプテストとしてのルーツをもち、ウォッチマン・ニーの「キリスト者の標準」に表現されているケズィック運動的な穏健なホーリネスの強調と穏健なカリスマ運動の強調というふたつの側面をもつJEC（日本福音教会）のあり方を、包括的な福音主義神学の視点から位置づけること。そしてJEC（日本福音教会）のルーツとアイデンティティを研究することであった。

JECの歩みの中に流れてきたすばらしい霊的恵み、十字架と聖霊の恵みを包括的な福音主義神学の視点からさらに輪郭を明らかに浮かび上がらせることにより、我喜屋師や高橋師を第一世代の中心的リーダーとしたJECのムーブメントがJECの第二世代、第三世代へと継承されていくことを保証していくこと。これらの神学的作業を可能にするための十分な手立て - 神学的パースペクティブ、歴史的判断力、宗教社会学的分析能力 - を身につけるための学問的訓練の時期であったように思う。わたしが宇田進師を敬愛するのは、そのような手ほどきを十分にしてくださり、そのために必要な論文・資料・参考文献をもおしげもなく提供してくださっている点である。宇田進師の資料の大半は、ペンテコステ・カリスマの流れにあるわたしたちが共有しうる福音主義的霊的・神学的遺産である。

以下の資料は、常に上記の課題を念頭におきつつ、共立基督教研究所と東京基督神学校の種々の科目の課題にこたえていったものである。

2 1 . 「パウロの福音理解」ローマ1 - 3章  
- 福音の深みと共同性に視野を置きつつ -  
(堺福音教会東京チャペル 聖書研究祈祷会資料)

2 2 . 「祖先崇拜考察」  
- 祖先崇拜の環境、土地、評価、分析、今後の展開の考察 -  
(共立基督教研究所 文化人類学レポート)

2 3 . 「福音主義神学における聖霊論の模索」



- 福音の深みと共同性という観点からの考察の枠組み -  
(「福音主義キリスト教と福音派」読后感想レポート 1989.9)

24. 「JECだより」「KBIニュース」原稿集  
- 潮流、ほか -

25. 「『ブルトマン』批判的考察」  
- 近代的世界観・人間観と聖書的世界観・人間観の問題についての整理 -  
(「新約聖書と神話論」の読后感想レポート)

26. 「私の聖書観」  
- 福音主義聖書観と聖霊論・文化論への展開についての整理 -  
(組織神学/啓示論・聖書論レポート)

27. 宣教学研究 - そのスコープの整理  
- 世界宣教の現況、世界宣教会議の動向、JECの課題について -  
(山口勝政「宣教学序説」レポート 1989.9)

28. 「ヘルマン・ド・イヴェルトによる『歴史主義批判』」  
- 特に、ヒットラーのナチズムの聖書的視点からの批判 -  
(稲垣久和「西洋文化のルーツ」講読ゼミのための翻訳)

29. 「『公式日本人論』批評」  
- 構造主義的人類学による日本人論のド・イヴェルトの視点からの批評 -  
(稲垣久和「宗教と社会」レポート)

30. 「『神の死の神学』の批判的考察」  
- 神の死の神学の多様な潮流、背景と特徴、ハーヴィ・コーンの批評 -  
(宇田進「現代神学」レポート)

31. 「『神論・人間論』演習問題」  
- 実践的無神論、日本宣教と神論、創造論と進化論、聖書的人間観等 -  
(「神学概論/神論・人間論」レポート)

32. 「『再臨信仰』の意義」  
- 終末論における位置、人間の生における必要性、再臨信仰の構造 -  
(「組織神学/教会論・終末論」レポート)

33. 「『世界的クリスチャン』を目指して」  
- JECのクリスチャン像「キリスト者の標準」の世界宣教における位置 -  
(JEC高校生スプリング・キャンプ資料)

34. 「世界宣教情勢と日本の教会の現状」  
- 宣教の聖書的基盤、歴史的展開、ローザンヌ会議とマニラ会議、  
文化と戦略、福音派 -  
(JEC春期合同聖会 分科会)

35. 「シカゴ・コールとJEC」

- シカゴにおける「福音派成熟」への呼びかけをJECへの呼びかけとして聞く -  
(JECニュースに一部掲載)

36. 「『新約聖書神学の課題』の理解」

- 混迷状況にある新約神学を研究史の観点から検討し、  
G. ヴォスを位置づける -  
(新約神学レポート)

37. 「私の聖書の読み方 - 特徴と課題 - 」

- ルネ・パディリアの論文をフレーム・ワークに、直観的・科学的・  
文化脈的アプローチを考察する -  
(聖書解釈学レポート)

38. 「『世界の諸宗教とキリスト教』の関係理解」

- 宗教の神学における問題意識と福音派における諸宗教理解 -  
(「世界の宗教」レポート)

39. 「『コンテクスチュアリゼーションの神学』 - その整理と考察 - 」

- 歴史的・神学的・哲学的・戦略的枠組み -  
(「コンテクスチュアリゼーションの神学」レポート)

40. 「J. D. G. ダンの『イエスと御霊』に関する一考察」

- 福音派聖霊論の一指針としてのダンの聖書解釈と洞察 -  
(アジア神学協議会修士論文 / Master of Arts in Missions)

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ (カ)

---

# 関西聖書学院講義録

[ [ホーム](#) ] [ [ICI日誌](#) ] [ [ICIの意義・目的](#) ] [ [神学入門](#) ] [ [夏季講義スナップ集](#) ]  
[ [フォトギャラリーI](#) ] [ [エリクソン著作集](#) ] [ [宇田進著作集](#) ] [ [キリスト教教理入門PP](#) ]  
[ [キリスト教神学PP](#) ] [ [ビデオ講義紹介](#) ] [ [関西聖書学院講義録](#) ] [ [自己紹介&チャペル](#) ]  
[ [登録申込・資料注文](#) ] [ [神学会 関連サイト](#) ]

[福音主義神学研究](#)

[ローザンヌ誓約研究](#)

[ローザンヌの歴史的系譜](#)

[宗教の神学](#)

[継続神学研究](#)

[特別講義録](#)

[論文指導](#)

---

## 関西聖書学院 講義録

関西聖書学院では、「録音された講義」での通信コースで単位認定がなされています。

[問い合わせ・申し込み先：関西聖書学院](#)

05/10/24

---

日本福音教会・山崎チャペル牧師・関西聖書学院講師の時期に  
まとめている諸資料

### 42. [「比較宗教学」](#)

- 日本の伝統的宗教的意識を、原質と形式という視点から歴史的・哲学的に解明していく -

\* 稲垣久和「大嘗祭とキリスト者」

### 43. [「福音主義神学研究」](#)

- 自らの信仰と神学のアイデンティティを神学的・歴史的・社会的要素を視野にいれ立体的に探求する -

\* 宇田進「福音主義キリスト教と福音派」

### 45. [「神学入門」](#)

- 聖書学部門・歴史神学部門・組織神学部門・実践神学部門の輪郭・本質・文献資料紹介 -

\* 宇田進「神学入門」（新キリスト教辞典）

### 47. [「組織神学」](#)

#### ["Intoroducing Christian Doctrine"](#)

M.J.Erickson著作集、宇田進「組織神学」資料集

### 50. [継続神学研究](#)

関西聖書学院ニュース原稿

## 5 1 . [A T A 修士論文](#)

J . D . G . Dunn の ” J e s u s & t h e S p i r i t ” の研究

## 5 2 . [研究図書目録](#)

今後、取り組み予定の研究図書の一覧

## 5 3 . 宣教学講義：[ローザンヌ誓約研究](#)

## 5 4 . [インターネット・パソコン活用](#)

西日本ルーテル教会の50周年記念の一日セミナーでの奉仕を機会にその資料をアップロードしました。これは、K B I の教職者セミナー資料と J E C 機関紙に掲載したもので、K B I でも特別講義のかたちで扱ったものです。

[神学研究・教会形成・宣教におけるパソコンの活用](#)

[電子メディア時代と J E C \(日本福音教会\)](#)

## 5 5 . 卒業論文指導

[卒業論文の実態と対策](#)

[論文指導 by E-Mail Lectures \(1999年夏\)](#)

関西聖書学院における卒業論文指導。指導時間があまりとれなかったため、電子メールでの指導となりました。

## 5 6 . [特別講義録](#)

2001年度からの春季三週間バイブルコースの特別講義のアウトライン。

**講義テープ・講義MD、講義録（電子メール講義録）等を希望者に有料（支援献金のかたち）でお分けしています。必要な資料を下記に「...の資料をお願いします。」とメールください。**

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださいありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ (カ)

---

## 掲示板：JECアイデンティティ研究室

[書き込み欄へ](#) [ヘルプ](#)

- [JEC アイデンティティ 研究室について](#) [1] [1999年 2月28日 18時30分19秒]  
[バプテスト研究資料について](#) [1] [1999年 2月28日 19時 2分26秒]  
[バプテスト派の自由性](#) [1] [1999年 2月28日 21時24分31秒]  
[バプテスト運動としてのJECの信仰告白](#) [1] [1999年 3月 1日 16時 2分 6秒]  
[JEC牧師会報告（1999年2月22-23日）を読んで](#) [1] [1999年 3月15日 0時 5分25秒]  
[JECの教会論：教会の政治形態について](#) [1] [1999年 3月 3日 21時 4分59秒]  
[堺福音教会の信仰理念・宣教理念を読んで](#) [1] [1999年 3月 4日 16時46分28秒]  
[我喜屋神学をスペクトル化する](#) [1] [1999年 3月 5日 18時32分32秒]  
[組織神学体系の整合性におけるJECの信仰告白と我喜屋神学](#) [1] [1999年 3月 6日 13時37分41秒]  
[包括的な神学の視点からの「我喜屋神学」の検証（講解）](#) [1] [1999年 3月 9日 8時38分58秒]  
[包括的神学の視野からの我喜屋神学の検証：「1.はじめに」 - 第三段落・](#) [1] [1999年 3月 9日 15時15分33秒]  
[包括的神学視野からの我喜屋神学の検証：・聖霊のバプテスマの教理](#) [1] [1999年 3月10日 16時41分26秒]  
[・聖化と聖霊のバプテスマの機能・目的の相違](#) [1] [1999年 3月11日 18時18分 6秒]  
[JECは「教派」？](#) [2] [1999年 3月16日 14時54分56秒]  
[序論：我喜屋師の聖霊のバプテスマ論とH・ベルコフの召命論](#) [1] [1999年 3月16日 11時51分49秒]  
[・我喜屋師の聖霊のバプテスマ論とH・ベルコフの召命論](#) [1] [1999年 3月17日 18時37分15秒]  
[・聖化と聖霊のバプテスマを貫く十字架](#) [1] [1999年 3月19日 16時 0分34秒]  
[・聖化と聖霊のバプテスマを貫く十字架](#) [1] [1999年 3月26日 18時17分 7秒]  
[・聖化と聖霊のバプテスマを貫く十字架](#) [1] [1999年 3月27日 18時14分55秒]  
[・聖化と聖霊のバプテスマを貫く十字架](#) [1] [1999年 3月30日 19時14分24秒]  
[・聖化と聖霊のバプテスマを貫く十字架](#) [1] [1999年 3月31日 16時51分10秒]  
[・聖化と聖霊のバプテスマを貫く十字架](#) [1] [1999年 4月 1日 17時59分46秒]  
[・聖化と聖霊のバプテスマを貫く十字架](#) [1] [1999年 4月 2日 16時47分52秒]  
[穏健カルヴァン主義の特徴・](#) [1] [1999年 4月 3日 18時44分36秒]  
[JEC Q & A 歴史神学の視点から](#) [1] [1999年 4月19日 16時17分25秒]

[JEC Q & A 世界における動向とJEC](#) [1] [1999年 4月20日 18時15分19秒]

[JEC Q & A 組織神学の視点から・](#) [1] [1999年 4月21日 17時11分53秒]

[JECの神学的座標軸を模索する](#) [1] [1999年 8月13日 13時36分21秒]

[Millard J.Erickson と 彼の神学の紹介](#) [8] [1999年 8月20日 14時45分35秒]

[M.J.エリクソンの文献的エッセイ](#) [8] [1999年 8月24日 15時55分50秒]

[JECとカルヴァン主義とアルミニウス主義の関わり](#) [1] [2000年 2月 1日 17時30分12秒]

[ICI NewsLetter 2000年度](#) [3] [2000年 3月17日 13時45分58秒]

---

## 書き込み

題名		氏名	
E-mail		URL	

[このページで「つながりにくいリンク」がありましたら、お知らせください。](#)

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

気軽に[下記のアドレス](#)までメールをお寄せください。あなたのメールをお待ちしています。このホームページの資料をプリントアウト、そして再コピーされる場合は、それぞれ与えられた恵みに従って「ICI支援献金」をしていただけたら感謝です。

[安黒務](#) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

---

## ICI 電子メール講義録 一覧

2005/05/26

---

### ICI 電子メール講義録：第1章 「神についての研究」

---

#### 1. キリスト教教理入門：序文 [ 3 ]

##### 1. 第一項 神学の性質

1. 第一節 教理の学びとしての神学 [ 7 ]
2. 第二節 教理の学びの必要性 [ 5 ]
3. 第三節 科学としての神学 [ 6 ]
4. キリスト教教理の研究の出発点 [ 6 ]

##### 2. 第二項 神学の方法：序 [ 1 ]

1. 第一節 聖書の材料の収集 [ 4 ]
2. 第二節 聖書の材料の整理 [ 2 ]
3. 第三節 聖書の教えの意味の分析 [ 2 ]
4. 第四節 歴史的取り扱いの吟味 [ 2 ]
5. 第五節 教理の本質のみきわめ [ 1 ]
6. 第六節 聖書以外の資料からの光 [ 4 ]
7. 第七節 教理の今日的表現 [ 5 ]
8. 第八節 解釈における中心的主題の深化 [ 2 ]
9. 第九節 主題における層形成 [ 2 ]

[ ... ] 内は講義数です。全部で52回の講義が入っています。[Booklet1630円] 半額815円

---

### ICI 電子メール講義録：第2章 「キリスト教のメッセージを今日化すること」

---

#### 1. 第一節 神学の今日的脈絡 [8]

#### 2. 第二節 キリスト教のメッセージの今日化へのアプローチ [7]

3. 第三節 キリスト教における不変の要素 [6]
4. 第四節 今日化の性質 [3]
5. 第五節 教理における永遠性の基準 [10]
6. まとめ [4]

[ ... ] 内は講義数です。全部で 3 8 回の講義が入っています。[Booklet1150円]  
半額575円

---

## I C I 電子メール講義録：第 3 章 「神の普遍的啓示」

---

1. 啓示の性質 [2]
2. 一般啓示の様式 [4]
3. 一般啓示の現実と効力
  1. 第一項 自然神学 [14]
  2. 第二項 自然神学批判 [6]
  3. 第三項 関連聖句の吟味 [7]
  4. 第四項 自然神学なしの一般啓示 [6]
4. 一般啓示と人間の責任 [4]
5. 一般啓示の意味合い [6]

[ ... ] 内は講義数です。全部で 4 9 回の講義が入っています。[Booklet1480円]  
半額740円

---

## I C I 電子メール講義録：第 4 章 「神の特別啓示」

---

1. 第一節 特別啓示の定義と必要性 [6]



## 2. 第二節 特別啓示の様式

1. 第一項 特別啓示の人格的性質 [3]
2. 第二項 特別啓示の人間的性質 [4]
3. 第三項 特別啓示の類比的性質 [4]

## 3. 第三節 特別啓示の方法:序 [1]

1. 第一項 歴史的出来事 [2]
2. 第二項 神の語りかけ [4]
3. 第三項 受肉 [4]

## 4. 第四節 特別啓示：命題的、あるいは人格的？ [5]

## 5. 第五節 啓示としての聖書 [5]

[...] 内は講義数です。全部で38回の講義が入っています。[Booklet1330円] 半額  
665円

---

### ICI 電子メール講義録：第5章 「啓示の保存：靈感」

---

1. 第一節 灵感の定義 [3]
2. 第二節 灵感の事実 [6]
3. 第三節 灵感の諸理論 [6]
4. 第四節 灵感の範囲 [4]
5. 第五節 灵感の強度 [4]
6. 第六節 灵感についてのモデル [10]

[...] 内は講義数です。全部で33回の講義が入っています。[Booklet1540円] 半額  
770円

---

### ICI 電子メール講義録：第6章 「神のことばの信頼性：無誤性」

---

1. 序 [1]
2. 第一節 無誤性についての多様な概念 [4]
3. 第二節 無誤性の重要性 [6]
4. 第三節 無誤性と事象 [4]
5. 第四節 無誤性を定義する [10]
6. 第五節 付随的問題 [4]

[ ... ] 内は講義数です。全部で 29 回の講義が入っています。[Booklet1300円] 半額  
650円

---

## ICI 電子メール講義録：第 7 章 「神のことばの力：権威」

---

1. 第一節 宗教的権威 [2]
2. 第二節 聖霊の内的働き [9]
3. 第三節 権威の客観的、そして規範的要素 [4]
4. 第四節 聖書と理性 [3]
5. 第五節 歴史的、そして規範的権威あるもの [2]

[ ... ] 内は講義数です。全部で 20 回の講義が入っています。[Booklet850円] 半額425  
円

---

## ICI 電子メール講義録：第 8 章 「神の教理」

---

1. 序 [4]
2. 第一節 神の内在性と超越性 [6]

1. 第一項 内在性の意味合い [5]
2. 第二節 超越性の意味合い [7]

3. 第二節 属性の性質 [5]

4. 第三節 属性の分類 [1]

[ ... ] 内は講義数です。全部で 2 8 回の講義が入っています。[Booklet1150円] 半額  
575円

---

## ICI 電子メール講義録：第 9 章 「神の偉大さ」

---

1. 第一節 靈性 [4]

2. 第二節 いのち [7]

3. 第三節 人格 [[6]

4. 第四節 無限性 [12]

5. 第五節 不変性 [5]

[ ... ] 内は講義数です。全部で 3 4 回の講義が入っています。[Booklet1150円] 半額  
575円

---

## ICI 電子メール講義録：第 10 章 「神の善良さ」

---

1. 第一節 道徳的特質：序 [1]

1. 第一項 道徳的純粹さ：序 [1]

1. 聖さ [4]

2. 義 [3]

3. 公正さ [4]

2. 第二項 誠実さ：序 [1]

1. 純粹さ [2]
2. 真実さ [2]
3. 忠実さ [3]

### 3. 第三項 愛：序 [1]

1. 博愛 [4]
2. 恵み [2]
3. 憐れみ [1]
4. 忍耐 [4]

## 2. 第二節 神の愛と正義 - 緊張のポイント [4]

[...]内は講義数です。全部で37回の講義が入っています。[Booklet1600円] 半額  
800円

---

## ICI電子メール講義録：第11章 「神の三一性：三位一体」

---

### 1. 序 [4]

### 2. 第一節 聖書の教え [1]

1. 第一項 神の唯一性 [4]
2. 第二項 三位の神性 [5]
3. 第三項 三位一体 [10]

### 3. 第二節 歴史上の解釈：序 [1]

1. 第一項 三位一体の「経綸的」見方 [2]
2. 第二項 勢力的単一神論 [2]
3. 第三項 様態論的単一神論 [3]
4. 第四項 正統信条 [6]

### 4. 三位一体の教理の本質的要素 [6]

### 5. 類比の探求 [11]

[...]内は講義数です。全部で55回の講義が入っています。[Booklet1690円] 半額  
845円

---

## ICI 電子メール講義録：第 17 章 「人間の教理についての導入」

---

1. 第一節 人間についてのイメージ:序 [1]
  1. 第一項 機械としての人間 [3]
  2. 第二項 動物としての人間 [3]
  3. 第三項 宇宙の人質としての人間 [2]
2. 第二節 人間についてのキリスト教的見方 [4]
3. 第三節 人間の創造についての聖書の説明 [2]
  1. 第一項 聖書における直接の人間の創造 [5]
  2. 第二項 直接の人間の創造と科学 [3]
4. 第四節 人間の創造についての神学的意味 [14]

[...] 内は講義数です。全部で 37 回の講義が入っています。[Booklet1660円] 半額  
830円

---

## ICI 電子メール講義録：第 32 章 「救いの始まり：主観的側面」

---

1. 序文 [1]
2. 第一節 有効召命 [5]
3. 第二節 回心 [7]
  1. 第一項 悔い改め [8]
  2. 第二項 信仰 [6]
4. 第三節 再生 [2]
  1. 第一項 聖書の記述 [3]
  2. 第二項 再生の意味 [7]
5. 第四節 有効召命、回心、再生の意味合い [1]

[ ... ] 内は講義数です。全部で 5 0 回の講義が入っています。[Booklet1450円] 半額  
725円

---

## ICI 電子メール講義録：第 3 3 章 「救いの始まり：客観的側面」

---

1. 序 [1]
2. 第一節 キリストとの結合
  1. 第一項 聖書の教え [2]
  2. 第二項 不適切なモデル [6]
  3. 第三項 結合の特徴 [7]
  4. 第四項 キリストとの結合の意味合い [4]
3. 第二節 義認：序 [1]
  1. 第一項 義認と法的正しさ [4]
  2. 第二項 法的義認の教理への異議 [5]
  3. 第三項 信仰と行い [1]
  4. 第四項 罪のひきずる結果 [2]
4. 第三節 子とされること：序 [1]
  1. 第一項 子とされることの性質 [4]
  2. 第二項 子とされることの利益 [7]

[ ... ] 内は講義数です。全部で 4 5 回の講義が入っています。[Booklet1840円] 半額  
920円

---

## ICI 電子メール講義録：第 3 4 章 「救いの継続と完成」

---

1. 序 [1]
2. 第一節 聖化
  1. 第一項 聖化の意味 [4]
  2. 第二項 聖化の特徴 [5]

3. 第三項 聖化：完全、あるいは不完全？ [9]

3. 第二節 堅忍：序 [1]

1. 第一項 カルヴァン主義者の見方 [5]
2. 第二項 アルミニウス主義者の見方 [5]
3. 第三項 問題の解決 [10]

4. 第三節 栄化：序 [2]

1. 第一項 栄化の意味 [2]
2. 第二項 信者の栄化 [6]

[...]内は講義数です。全部で49回の講義が入っています。[Booklet2200円] 半額  
1100円

---

I C I 電子メール講義録：第35章 「教会の性質」

---

序 [1] [2002年2月9日] (1)

第一節 “教会” という用語の基本的意味 [2002年9月6日] (3)

第一節 教会の一致 [2002年11月1日] (7)

第三節 教会の聖書的イメージ [2002年11月8日] (1)

- 第一項 神の民 [2002年12月27日] (6)
- 第二項 キリストのからだ [2003年6月27日] (8)
- 第三項 聖霊の宮 [2003年10月3日] (9)

第四節 意味合い [2003年10月10日] (1)

[...]内は講義数です。全部で36回の講義が入っています。[Booklet 2500円] 半額  
1250円

---

I C I 電子メール講義録：第38章 「終末論への導入と個人終末論」

---

- ☐ \* 第一節 終末論への導入 [2003年5月6日] (20)
  
- ☐ \* 第二節 死 [2003年6月5日]
  - ☐ \* 第一項 死の現実 (2)
  - ☐ \* 第二項 死の性質 (2)
  - ☐ \* 第三項 肉体の死：自然なのか、不自然なのか？ (2)
  - ☐ \* 第四項 死の結果 (4)
  
- ☐ \* 第三節 中間状態 [2003年8月25日]
  - ☐ \* 第一項 その教理の難しさ (4)
  - ☐ \* 第二項 中間状態の最近の見方
    - 魂の眠り (6)
    - 煉獄 (5)
    - 即座の復活 (2)
    - 示唆されている解決 (4)
  
- ☐ \* 第四節 死の教理と中間状態の意味合い [2003年8月26日] (4)

[...]内は講義数です。全部で55回の講義が入っています。[Booklet 3460円] **半額1730円**



- 序 ( 1 )
- 1. **再臨 ( 27 )**
  - (ア)出来事の明瞭さ
  - (イ)期日の不明瞭さ
  - (ウ)来臨の特徴
    - 個人的
    - 肉体をもって
    - 見えるかたちで
    - 予期しないときに
    - 勝利と栄光のうちに
  - (エ)再臨の一体性
  - (オ)再臨の急迫性
- 2. **復活 ( 13 )**
  - (ア)聖書の教え
  - (イ)三位一体の神の働き
  - (ウ)性質において肉体を伴う
  - (エ)義なる者と不義なる者の双方において
- 3. **最後の審判 ( 10 )**
  - (ア)未来の出来事
  - (イ)裁き主としてのイエス・キリスト
  - (ウ)裁きの対象
  - (エ)裁きの基盤
  - (オ)裁きの究極性
- 4. **再臨とその結果の意味合い ( 1 )**

[ ... ] 内は講義数です。全部で52回の講義が入っています。[Booklet 4030円]  
半額2015円

---

I C I 電子メール講義録 : 第 4 0 章 「千年王国と大患難についての見方」

---

☐ 第一節 千年王国の見方 ( 1 )

後千年王国説（５）

前千年王国説（１２）

無千年王国説（１０）

問題を解決すること（６）

☐\* 第二節 大患難の見方（１）

大患難前再臨説（９）

大患難後再臨説（９）

調停的立場（１）

問題を解決すること（５）

[...]内は講義数です。全部で５９回の講義が入っています。[Booklet 3670円]  
半額1835円

# ビデオ講義紹介

- [ [ホーム](#) ] [ [I C I 日誌](#) ] [ [ICI の意義・目的](#) ] [ [神学入門](#) ] [ [夏季講義スナップ集](#) ]  
[ [フォトギャラリー I](#) ] [ [エリクソン著作集](#) ] [ [宇田進著作集](#) ] [ [キリスト教教理入門 PP](#) ]  
[ [キリスト教神学 P P](#) ] [ [ビデオ講義紹介](#) ] [ [関西聖書学院講義録](#) ] [ [自己紹介 & チャペル](#) ]  
[ [登録申込・資料注文](#) ] [ [神学会 関連サイト](#) ]

[2003-05 KV 講義](#)

[2003-05 IV 講義](#)

[2004-06 KV 講義](#)

[2005-07 KV 講義](#)

[ビデオ・オン・デマンド](#)

## ICI ビデオ講義紹介

2005/10/26



[Standard DivX Codec\(FREE\)](#) スタンダード・ディベックス・コーデック (無料ダウンロードサイト)

I C I のサイトのビデオ・ファイルは、DivX形式でデータ圧縮されています。このデータを伸縮するためには、上記のDivXコーデック (伸縮プログラム) が必要です。上記のDivXサイトから無料でダウンロードできます。

左記のビデオ講義のページは、

- [A D S L](#) か [光ファイバー接続](#) にてご利用ください。
- ビデオ講義紹介とは、  
幾つかの神学校での『キリスト教神学』講義をデジタル・ビデオ収録したものです。  
講義の一部分 ( 5 ~ 1 0 分 ) を「ビデオ講義紹介」として **無料公開** しているものです。

ビデオ講義を **インターネット** を通して **直接に受講** できるようになりました。

- 講義 6 0 分につき、1 0 0 0 円の計算です ( 6 0 分講義と 9 0 分講義があります )。
- 光ないし [A D S L](#) 接続の場合、ダウンロード ( コピー ) 保存してパソコン内で繰り返し学ぶことができます。

ビデオ講義は **D V D - R** でも学べます。

- 現在のところ講義 6 0 分につき、1 0 0 0 円の計算

で、「DVD-R講義」を郵送させていただいています  
(送料別)。

- パソコン、DVDレコーダー等々、**DVD**を見ることができる機器で、「DVD-R講義」を見ることができます。

紹介ビデオをご覧になり、その章の全体の視聴を希望される方は下記に問い合わせ・申し込みください。

---

### 感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださりありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ(カ)

---

# 2003-05 IV講義

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [2003-05 KV講義](#) ] [ [2003-05 IV講義](#) ] [ [2004-06 KV講義](#) ]  
[ [2005-07 KV講義](#) ] [ [ビデオ・オン・デマンド](#) ]

[1. 神学とは何か](#)

[3. 神学の方法](#)

[5. メッセージの今日化](#)

[8. 普遍的啓示](#)

[9. 特別啓示](#)

[10. 靈感](#)

[11. 無誤性](#)

[12. 権威](#)

[13. 神の偉大さ](#)

[14. 神の慈しみ深い善性](#)

[15. 神の内在と超越](#)

[16. 神の三位一体](#)

[17. 神の計画](#)

[18. 神の創造](#)

[19. 神の摂理](#)

[22. 人間の教理への導入](#)

[24. 人間における神の像](#)

[25. 人間を構成する性質](#)

[27-28. 罪の性質・源](#)

[29. 罪の結果](#)

[30. 罪の規模](#)

[33. キリストの神性](#)

[34. キリストの人性](#)

[35. キリストの人格の統一性](#)

[37. キリストのみわざへの導入](#)

[39. 贖いの中心的主題](#)

[41. 聖霊の人格](#)

[42. 聖霊の働き](#)

[43. 救いの諸概念](#)

[44. 救いの先行性：予定](#)

[45. 救いの始まり：主観](#)

[46. 救いの始まり：客観](#)

[47-48. 救いの継続と完成](#)

[50-55. 教会の性質](#)

[51-52. 教会の役割と政治](#)

[53-54. 教会の儀式：洗礼と聖餐](#)

Classroom in Ikoma Bible College

## ICI ビデオ講義紹介

2005/11/11

講義・講演時間:下記の 講義は入手可能です。  
〔DVD-R講義配布中!〕

- 第一章 神学とは何か (60分)
- 第三章 神学の方法 (60分)
- 第五章 メッセージの今日化 (60分)
- 第八章 普遍的啓示 (60分)
- 第九章 特別啓示 (60分)
- 第十章 靈感 (60分)
- 第十一章 無誤性 (60分)
- 第十二章 神の言葉の権威 (60分)
- 第十三章 神の偉大さ (60分)
- 第十四章 神の善良さ (60分)
- 第十五章 神の内在と超越 (60分)
- 第十六章 神の三位一体 (180分)
- 第十七章 神の計画 (120分)
- 第十八章 神の創造 (180分)
- 第十九章 神の摂理 (60分)
- 第二十二章 人間の教理への導入 (60分)
- 第二十四章 人間における神の像 (60分)
- 第二十五章 人間を構成する性質 (60分)
- 第二十七・八章 罪の性質・源 (60分)
- 第二十九章 罪の結果 (60分)
- 第三十章 罪の規模 (60分)
- 第三十三章 キリストの神性 (60分)

- 第三十四章 キリストの人性（60分）
- 第三十五章 キリストの人格の統一性（60分）
- 第三十七章 キリストのみわざ論への導入（60分）
- 第三十九章 贖いの中心的主題（60分）
  
- 第四十一章 聖霊の人格（60分）
- 第四十二章 聖霊の働き（120分）
- 第四十三章 救いの諸概念（60分）
  
- 第四十四章 救いの先行性：予定（60分）
  
- 第四十五章 救いの始まり：主観面（60分）
  
- 第四十六章 救いの始まり：客観面（90分）
  
- 第四十七・八章 救いの継続と完成（90分）
  
- 第五十・五章 教会の性質（60分）
  
- 第五十一・二章 教会の役割と統治（60分）
  
- 第五十三・四章 教会の儀式：洗礼と聖餐（60分）
  
- 第五十六・七章 導入的事柄と個人終末論
  
- 第五十八章 再臨とその結果
  
- 第五十九章 千年王国と大艱難
  
- 第六十章 最後の状態

# 2003-05 KV講義

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [2003-05 KV講義](#) ] [ [2003-05 IV講義](#) ] [ [2004-06 KV講義](#) ]  
[ [2005-07 KV講義](#) ] [ [ビデオ・オン・デマンド](#) ]

[姫路読書会-講演](#)  
[福音主義神学序説](#)  
[歴史神学研究の応用](#)  
[5. メッセージの今日化](#)  
[8. 普遍的啓示](#)  
[9. 特別啓示](#)  
[10. 靈感](#)  
[11. 無誤性](#)  
[12. 神の言葉の権威](#)  
[13. 神の偉大さ](#)  
[14. 神の善良さ](#)  
[15. 神の内在と超越](#)  
[16. 神の三位一体](#)  
[47. 継続と完成](#)  
[50. 教会の性質](#)  
[51. 教会の役割](#)  
[53. 教会の儀式](#)  
[56. 終末論導入](#)  
[56-60. 終末論概観](#)  
[卒業論文指導](#)

---

Classroom in Kansai Bible Institute & Others

## ICI ビデオ講義紹介

2005/11/11

---

講義・講演時間: 下記の講義は、すべて入手可能です。

[ **DVD-R講義配布中!** ]

- 姫路読書会講演 (90)
- 福音主義神学序説 (180)
- 第五章 メッセージの今日化 (90)
- 第八章 普遍的啓示 (90)
- 第九章 特別啓示 (90)
- 第十章 靈感 (90)
- 第十一章 無誤性 (90)
- 第十二章 神の言葉の権威 (90)
- 第十三章 神の偉大さ (90)
- 第十四章 神の善良さ (90)
- 第十五章 神の内在と超越 (90)
- 第十六章 神の三位一体 (90)
- 第十七章 神の計画 (90)
- 第十八章 神の創造 (90)
- 第十九章 神の摂理 (90)
- 第二十二章 人間論への導入 (90)
- 第二十四章 人間における神の像 (90)
- 第二十五章 人間を構成する性質 (90)
- 第二十七章 罪の性質と源 (60)
- 第二十九章 罪の結果 (60)
- 第三十章 罪の規模 (60)
- 第三十三章 キリストの神性 (90)
- 第三十四章 キリストの人性 (90)
- 第三十五章 キリストの人格の統一性 (90)
- 第三十七・八章 キリストのみわざについての導入・贖いの諸理論 (90)
- 第三十九章 贖罪において中心となる主題 (90)

- 第四十一章 聖霊の人格 ( )
- 第四十二章 聖霊のみわざ (60) : 奇跡的賜物 A (60) ・ B (60)
- 第四十三章 救いの概念 (180)
- 第四十四章 救いの先行性 : 予定 (90)
- 第四十五章 救いの始まり : 主観的側面 (90)
- 第四十七・四十八章 救いの継続と完成 (90)
- 第五十章 教会の性質 (90)
- 第五十一章 教会の役割 (90)
- 第五十三章 教会の儀式 (90)
- 第五十六章 終末論導入 (90)
- 第五十六～六十章 終末論概観 (90)
- 卒業論文指導 (90)

---

### 感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださりありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ (カ)

---



# 2004-06 KV講義

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [2003-05 KV講義](#) ] [ [2003-05 IV講義](#) ] [ [2004-06 KV講義](#) ]  
[ [2005-07 KV講義](#) ] [ [ビデオ・オン・デマンド](#) ]

[01. 神についての研究](#)  
[03. 神学の方法](#)  
[05. メッセージの今日化](#)  
[07. ポストモダンと神学](#)  
[08. 神の普遍的啓示](#)  
[09. 神の特別啓示](#)  
[10. 啓示の靈感](#)  
[11. 神の言の無誤性](#)  
[12. 神の言の権威](#)  
[15. 神の内在性と超越性](#)  
[13. 神の偉大さ](#)  
[14. 神の慈しみ深い善性](#)  
[16. 神の三一性：三位一体](#)  
[17. 神の計画](#)  
[18. 神の創造](#)  
[19. 神の摂理](#)  
[22. 人間論への導入](#)  
[24. 人間における神の像](#)  
[25. 人間を構成する性質](#)  
[27. 罪の性質と源](#)  
[29. 罪の結果](#)  
[30. 罪の規模](#)  
[33. キリストの神性](#)  
[34. キリストの人性](#)  
[35. 人格の統一性](#)  
[37-38. 導入と諸理論](#)  
[39. 贖罪の中心的主題](#)  
[41. 聖霊の人格](#)  
[42. 聖霊のみわざ](#)  
[43a1. 救いの概念](#)  
[44. 救いの先行性：予定](#)  
[45. 救いの始まり：主観](#)  
[46. 救いの始まり：客観](#)  
[47. 救いの継続と完成](#)  
[50. 教会の性質](#)  
[51. 教会の役割・政治](#)

---

Classroom in Kansai Bible Institute & Others

**ICI ビデオ講義**：2004秋スタート版

2005/11/11

---

## 講義パワーポイント資料と講義板書ノート

1. [神についての研究](#)：[「講義板書ノートby Aguro」](#) [ 閲覧用 ]
  1. 神学の性質（90分講義：2004.9.16）
  2. 神学の方法（90分講義：2004.10.15）
2. [キリスト教のメッセージを今日化すること](#)：[「講義板書ノートby Aguro」](#) [ 閲覧用 ]（90分講義：2004.10.16）  
3pm. [改訂版三章：ポストモダンと神学](#)：[「講義板書ノートby Aguro」](#) [ 閲覧用 ]（90分講義：2004.10.16）
3. [神の普遍的啓示](#)：[「講義板書ノートby Aguro」](#) [ 閲覧用 ]（90分講義：2004.11.02）
4. [神の特別啓示](#)：[「講義板書ノートby Aguro」](#) [ 閲覧用 ]（90分講義：2004.11.02）
5. [啓示の保存：靈感](#)：[「講義板書ノートby Aguro」](#) [ 閲覧用 ]（90分講義：2004.11.02）
6. [神のことばの信頼性：無誤性](#)：[「講義板書ノートby Aguro」](#) [ 閲覧用 ]（90分講義：2004.11.25）

7. [神のことばの力：権威](#)：「[講義板書ノートby Aguro](#)」  
[ 閲覧用 ] ( 90分講義：2004.11.25 )
8. [神の教理](#)：「[講義板書ノートby Aguro](#)」 [ 閲覧用 ] ( 90分講義：2004.11.26 )
9. [神の偉大さ](#)：「[講義板書ノートby Aguro](#)」 [ 閲覧用 ]  
( 90分講義：2004.11.26 )
10. [神の善良さ](#)：( 90分講義：2005.02.09 )
11. [神の三一性：三位一体](#)：( 90分講義：2005.02.09 )
12. [神の計画](#)：( 90分講義：2004 )
13. [神の原初的働き：創造](#) ( 90分講義：2004 )
14. [神の継続的働き：摂理](#) ( 90分講義：2004 )
15. 悪と神の世界：特別な問題
16. 神の特別な代理人：天使
17. [人間の教理への導入](#) ( 90分講義：2004 )
18. [人間における神の像](#) ( 90分講義：2004 )
19. [人間を構成している性質](#) ( 90分講義：2004 )
20. [罪の性質と源](#) ( 90分講義：2004 )
21. [罪の結果](#) ( 90分講義：2004 )
22. [罪の重大な影響](#) ( 90分講義：2004 )
23. [キリストの神性](#) ( 90分講義：2004 )
24. [キリストの人性](#) ( 90分講義：2004 )
25. [キリストの人格の統一性](#)：[キリストの神学に関する六つの基本的な異端](#) ( 90分講義：2004 )

26. [キリストのみわざへの導入](#) : ( 90分講義 : 2004.09.15 )
27. [贖いの中心的主題](#) : ( 90分講義 : 2004.09.16 )
28. [聖霊の人格](#) : ( 90分講義 : 2005.04.14 )
29. [聖霊の働き](#) : ( 90分講義 : 2005.04.14 )
30. [救いの諸概念](#) : ( 90分講義 : 2005.04.28 )
31. [救いの先行性 : 予定](#) : ( 90分講義 : 2005.05.10 )
32. [救いの始まり : 主観面](#) : ( 90分講義 : 2005.05.10 )
33. [救いの始まり : 客観面](#) : ( 90分講義 : 2005.05.25 )
34. [救いの継続と完成](#) : ( 90分講義 : 2005.05.25 )
35. [教会の性質](#) : ( 90分講義 : 2005.09.14 )
36. [教会の役割と統治](#) : ( 90分講義 : 2005.09.14 )
37. [教会の儀式 : 洗礼と聖餐](#)
38. 導入的事柄と個人終末論
39. 再臨とその結果
40. 千年王国と大艱難
41. 最後の状態

# 2005-07 KV講義

[ [ホーム](#) ] [ [上へ](#) ] [ [2003-05 KV講義](#) ] [ [2003-05 IV講義](#) ] [ [2004-06 KV講義](#) ]  
[ [2005-07 KV講義](#) ] [ [ビデオ・オン・デマンド](#) ]

- [00. 神学入門](#)
- [01. 神学の性質](#)
- [03. 神学の方法](#)
- [05. メッセージの今日化](#)
- [07. ポストモダンと神学](#)
- [08. 神の普遍的啓示](#)
- [09. 神の特別啓示](#)
- [10. 啓示の保存：靈感](#)
- [11. 神の言葉の無誤性](#)
- [12. 神の言葉の力：権威](#)
- [13. 神の偉大さ](#)
- [15. 神の教理](#)

---

Classroom in Kansai Bible Institute & Others

**ICI ビデオ講義**：2005春スタート版

2005/11/11

---

## 講義パワーポイント資料

[序：神学入門](#) (90分講義：2005.0510)

### 1. 神学をすること

#### 1. [神についての研究](#)

1. 神学の性質 (90分講義：2005.0511)

2. 神学の方法 (90分講義：2005.0511)

#### 2. [キリスト教のメッセージを今日化すること](#)：

1. キリスト教のメッセージを今日化すること  
(90分講義：2005.0517)

2. 質疑応答 (90分講義：2005.0517)

3. [改訂版三章：ポストモダンと神学](#) (90分講義：  
2005.0524)

### 2. 神の啓示

1. [神の普遍的啓示](#)：(90分講義：2005.0524)

2. [神の特別啓示](#)：(90分講義：2005.0524)

3. [啓示の保存：靈感](#)：（90分講義：2005.0920）

4. [神のことばの信頼性：無誤性](#)：（90分講義：2005.0920）

5. [神のことばの力：権威](#)：（60分講義：2005.1108）

### 3. 神の性質

1. [神の教理](#)：（60分講義：2005.1108）

2. [神の偉大さ](#)：（60分講義：2005.1108）

3. [神の善良さ](#)

4. [神の三一性：三位一体](#)

### 4. 神のみわざ

1. [神の計画](#)

2. [神の原初的働き：創造](#)

3. [神の継続的働き：摂理](#)

4. 悪と神の世界：特別な問題

5. 神の特別な代理人：天使

### 5. 人間

1. [人間の教理への導入](#)

2. [人間における神の像](#)

3. [人間を構成している性質](#)

### 6. 罪

1. [罪の性質と源](#)

2. [罪の結果](#)

3. [罪の重大な影響](#)

7. キリストの人格

1. [キリストの神性](#)

2. [キリストの人性](#)

3. [キリストの人格の統一性](#) : [キリストの神学に関する六つの基本的な異端](#)

8. キリストのみわざ

1. [キリストのみわざへの導入](#)

2. [贖いの中心的主題](#)

9. 聖霊

1. [聖霊の人格](#)

2. [聖霊の働き](#)

10. 救い

1. [救いの諸概念](#)

2. [救いの先行性：予定](#)

3. [救いの始まり：主観面](#)

4. [救いの始まり：客観面](#)

5. [救いの継続と完成](#)

11. 教会

1. [教会の性質](#)

2. [教会の役割と統治](#)

### 3. [教会の儀式：洗礼と聖餐](#)

## 12. 最後の事物

1. 導入的事柄と個人終末論
2. 再臨とその結果
3. 千年王国と大艱難
4. 最後の状態

---

感想、質問、登録、注文、コピー・印刷、資料代金・支援献金窓口

このページをご覧くださりありがとうございます。感想メールなどいただけたら感謝です。あなたのメールをお待ちしています。

[aguro@mth.biglobe.ne.jp](mailto:aguro@mth.biglobe.ne.jp) : 郵便振替口座番号 : 01110-0-15025 加入者名 : 一宮基督教研究所

三井住友銀行 ドットコム支店 支店番号953 普通預金 口座番号1412949 受取人名 : イーバンクギンコウ(カ)

---